

気象庁ワークショップ



経験したことのない

その時どうする？

運営マニュアル

(令和3年5月 災害対策基本法改正対応版)

「大雨」に対する警戒

気象災害には様々なものがあります。中でも大雨による災害は、地形や住環境、家族構成などの状況により、対応する安全行動に違いがあります。大雨による災害が予想される時には、大雨に関する気象情報、大雨注意報、大雨警報などの気象情報が段階的に発表されます。これらの気象情報を体系的に理解して入手し、早めの準備、安全行動をとることが大切です。

また、通常時から住居や普段良く立ち寄る場所にどのような危険が潜んでいるか、避難所の場所、避難ルートなどを確認しておくことも、防災を進める上で大切な視点です。

市民の継続的な防災意識向上を目指し、気象庁は、コミュニケーションを重視した学習手法に注目し、平成25年度に「気象庁ワークショップ『経験したことのない大雨 その時どうする？』』という学習プログラムを開発しました。平成26年6月に、このプログラムをさらに多くの方に活用いただくため、本マニュアルを含め、教材一式を公開しました。

※令和3年5月 災害対策基本法の改正に伴う避難情報の見直し等に対応したチュートリアル、シナリオ等に改定しています。



ワークショップ概要

時間 2時間程度
対象 小学校高学年から大人まで
定員 10人～50人程度





経験したことのない その時どうする？

1

概要

このマニュアルの使い方
気象庁ワークショップに寄せて（教育学の視点から）
防災教育としての「ワークショップ」の意義

このマニュアルの使い方

このマニュアルは、「[気象庁ワークショップ 経験したことのない大雨その時どうする？](#)」の実施をする方のために用意されたものです。

1章には、概要を書いています。このワークショップがどのような目的で企画されたのか、実施するとどのような効果が期待できるのか、について説明しています。

2章には、このワークショップ全体の流れと、事前に準備すべきことはなにかについて書いています。

3章は、ワークショップで使う基本的な知識をレクチャー用に整理しています。

4章は、想定する現象経過に合わせたワークショップの流れ（シナリオ）です。

レクチャーとシナリオは、進行を対話形式で進められるようになっています。

特にシナリオでは、実際に使っていただくスライドを利用しながら、当日の流れを段階的に追うことができるようになっています。

最後には付録として、実施の際に活用できる資料を用意しています。

必要に応じて手を加えながら、ワークショップの実施にお役立てください。



学習活動に関連する用語

このマニュアルの中では、いくつかの専門用語が出てきます。

ここでは学習活動に関連する用語について紹介します。

なお、気象に関する専門用語は、3章のシナリオに、「気象コラム」として解説がありますのでそちらを参照してください。

ワークショップ

他者との相互作用の中で学ぶ、参加型学習活動の方法及び形式を指します。

本マニュアル中では、「WS」と表記することもあります。

ファシリテーション

ワークショップの中で、参加者同士が相互行為を通じて学ぶ過程を見守りながら、参加者の主体的な学習を促すことを指します。

シナリオ

ワークショップ中に参加者に対して話す必要のある台詞が書かれたものです。

ワークショップを実施する際には、事前に目を通し読む練習をしておきます。

その上で、本番では一言一句同じに読むのではなく、自分の話しやすいように表現を工夫してみると良いでしょう。

タイムテーブル

ワークショップ中の時間割のことを指します。

開始時間と終了時間だけでなく、その日何を行うのかをその場にいる人同士できちんと確認するためにも重要です。

リハーサル

本番を行う前に、個々の段階を本番同様に進行させることです。

前日や当日の実施直前に、スタッフ全員で行うと良いでしょう。

台本に従ってスタッフの役割分担や動きを確認します。

気象庁ワークショップに寄せて（教育学の視点から）

東京大学大学院情報学環 特任助教
森玲奈（もり・れいな）

なぜワークショップなのか？

近年、深い学びや意識の変容を促す方法として、参加型学習が注目されています。中でも、協働作業やコミュニケーションを重視する「ワークショップ」は、1990年代から特に注目が集まっている教育方法です。ワークショップは「ゆりかごから墓場まで」学び続ける社会において、活用される範囲が広がり続けています。私は、ワークショップのデザインと実践者育成について、教育学の観点から研究を10年続けてまいりました。

気象庁の方から、「コミュニケーションを用いた防災教育のプログラムを考案し、普及可能なものにして公開できるようにしたい」というお考えをお聞きした際、私は、大変有意義かつ先駆的な取り組みだと思い、今回のプログラムの監修を快諾いたしました。

本プログラムの特徴

本プログラムの特徴は三つあります。

一点目は、気象庁の専門家と教育方法の専門家が協働して企画を立てた点です。防災教育は、個々の知識をインプットだけに留まることなく、自分事として考え、動けるよう促していかなければ価値のある学習活動とは言えないでしょう。ふと考えれば、気象情報をどのように活用したらいいのか、そもそも気象情報はどのように得られるのか、私自身わかっていないことの多さに気が付きました。ワークショップでは、参加者が主体的に考え動くことができるよう、特別な予備知識を前提としない設計をすることが重要です。そこで、私は素朴なところから丁寧に、徹底したヒアリングと検討を重ねました。さらにプレ実践を経て、このプログラムを洗練させました。

二点目は、専門家との充実した質疑、参加者同士の議論といったコミュニケーションができる機会を豊富に取り入れることで、予備知識の有無に関わらず参加者それぞれが主体的に関与しやすい学習環境をつくった点です。レクチャーとグループワークを混合し、学習が生起しやすいよう提供する情報量を段階的にしています。また、対話が生まれやすいよう空間配置も留意しています。

三点目は、形成的評価を重ね、安定した教育効果が見込める学習プログラムに仕上げた点です。2013年10月から本実践を開始し、2014年2月までに全国6地区の中高生、総数180人に参加体験していただくことができました。そこでの参加者の教育効果を検討するとともに、運営スタッフの反省点、見学に来られた教育関係者の方々の意見を伺いながら、プログラムの改善を重ねました。

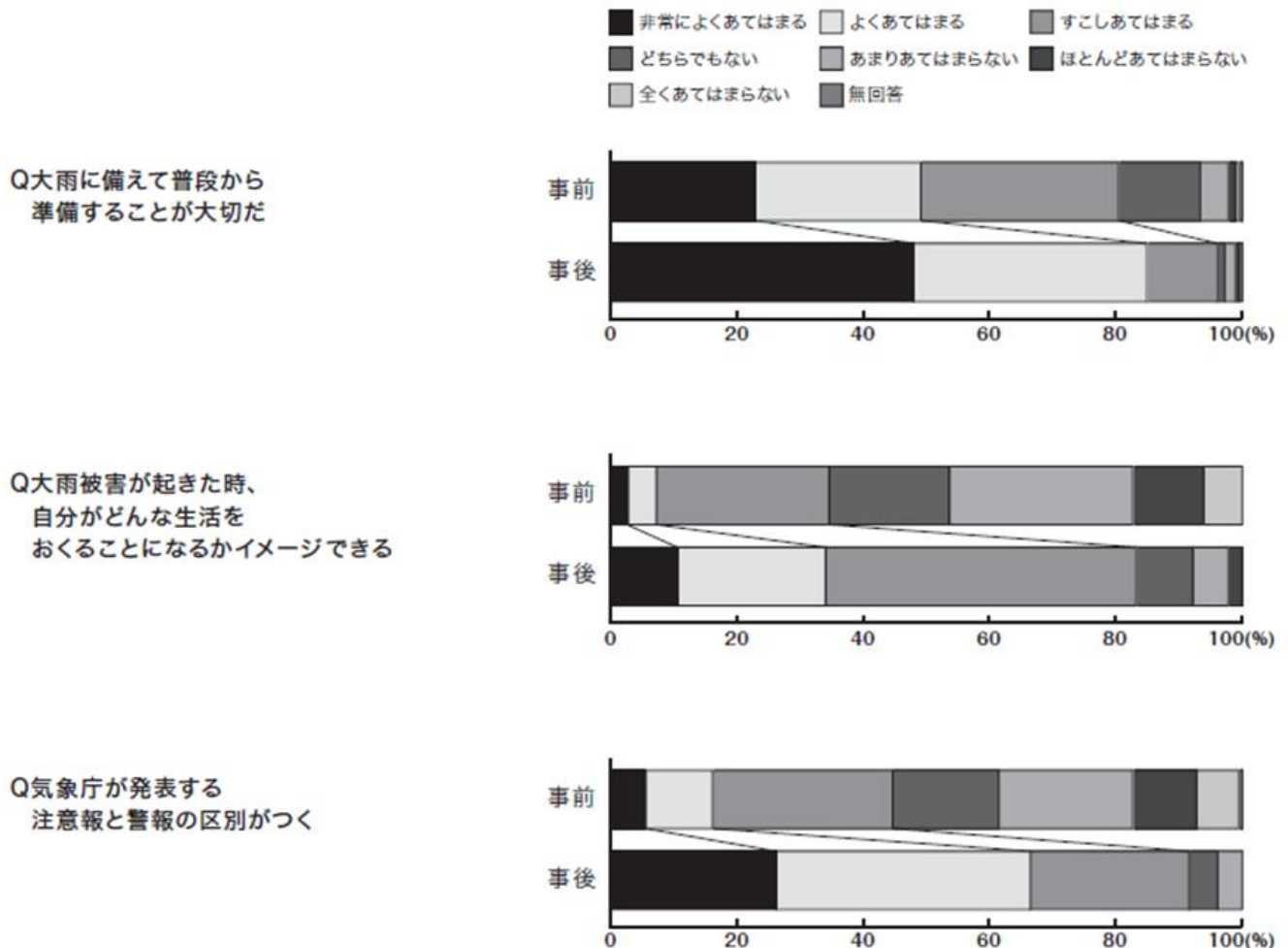
今後は、学校や事業所、自治体、自主防災組織など幅広い年代の方々に本ワークショップをご活用いただき、災害に強い人、学校や組織、地域を作ることに関与していただければ、と考えています。今後も多くの方に、このワークショップを体験していただけたらと思っています。

（2014年3月22日 寄稿）

防災教育としての「ワークショップ」の意義

これまで気象庁は、リーフレットやDVD等の普及啓発資料、ホームページコンテンツ、講演会等で普及啓発を図ってきていました。しかしながら、防災意識を高め、実際の行動につなげることを目標とした場合、情報を届けるにとどまらない、もう少し踏み込んだ教育実践が必要です。一つの地域では、大雨による大規模な災害の発生頻度は少ないため、長期間の取り組みが必要です。「気象庁ワークショップ『経験したことのない大雨 その時どうする?』」では、防災通常時の備え、適時適切な情報入手や安全行動といった対応力を身につけるため、自らの問題として事前にシミュレートする活動を取り入れています。

このワークショップの成果として、知識が増えることだけではなく、意識の高まりがあったことが2013年度実施計6回のアンケート総計結果の事前事後比較から明らかになりました。下記はその一例です。



参加者だけではなく、実施に関わった運営スタッフからも、参加者の多様な視点から刺激を受けたという声が寄せられました。また、見学された学校関係者の中には、教科学習に結び付けられるというご意見だけではなく、ディスカッションを取り入れた学習プログラムの中で参加者が主体的に発言し学ぶ姿を喜ばれる声もありました。ワークショップにおいて、参加者は主体的な関与を通じ多くのことを学ぶと考えられます。



経験したことのない 大雨 その時どうする？

2

進 行

ワークショップ全体の流れ
ワークショップを作る人たち
告知方法
準備するもの
会場レイアウト例
ワークショップ進行
記録を撮る場合

ワークショップ全体の流れ

ワークショップは準備をする段階で既に始まっています。
当日スムーズな運営ができるかどうかは、ほぼ準備にかかっています。
次のスライドに進むタイミングやアニメーションを動かすタイミングは、可能であればリハーサルの中で確認をしましょう。
また終了後の後片付けや反省会も、次を良いものにするためにとても重要です。

半年前~2ヶ月前

- ① 企画
- ② 会場決め
- ③ スタッフ集め

1ヶ月前

- ④ 告知・集客

1週間前

- ⑤ 機材・配布資料の準備

前日

- ⑥ 会場 配置
- ▶ 出来れば… ⑦ 事前打ち合わせとリハーサル

当日

- ▶ 出来れば… ⑧ 当日打ち合わせとリハーサル
- ⑨ 受付・会場誘導
 - ⑩ ワークショップ開催
 - ⑪ 会場撤収
 - ⑫ 反省会



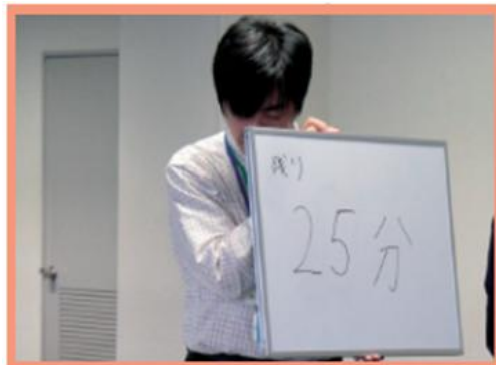
ワークショップを作る人たち

ファシリテーター



総合司会、専門家の解説や質疑応答の内容を分かり易く伝える等の補助を行います。場合によっては専門家を兼任します。

タイムキーパー



イベント開始から会場後方にて、ファシリテーターに残り時間を教えるタイムキープをします。

スタッフ



会場設営、受付、アンケートの回収や、ワーク時の資料配布。また他スタッフの補助等を行います。

記録



イベントの会場設営、前日打ち合わせからイベント中のスナップ写真及びムービー撮影を行います。

専門家



スライドの解説、参加者との質疑応答、講評などを行います。場合によってはファシリテーターを兼任します。

チーフ



イベント開催までの制作管理及び準備、イベントの運営・進行・時間管理その他イベントに関わる全ての作業を統括します。

- ※それぞれの役割と並行して、挨拶・声掛け・笑顔・拍手など、参加者の緊張をほぐしてあげるため、積極的に場を盛り上げることを忘れないようにしましょう
- ※会場の広さや参加者の人数に合わせて、役割を担当する人数を決めましょう

告知方法

参加者を公募する場合は、どのような層からの参加を期待するかによって告知方法を選ぶことがとても大切です。

告知方法の例としては

- ホームページ
- 開催場所や近隣にチラシを設置、配布
- 学校内などにポスターを掲示
- TwitterやFacebookなどのSNSの活用

など様々な形式があります。

実施する場所や年齢層も考慮し、最適な方法を見つけましょう。

ポスター、チラシ例

- ① 告知文 イベント全体の説明をわかりやすく、簡単に入れましょう。
- ② 日時 開催日時、開始時刻だけでなく、開場時間や終了予定時間も記載すると親切です。
- ③ 場所 住所は勿論、最寄り駅や周辺地図を合わせて掲載出来ると良いでしょう。
- ④ 連絡先 緊急用の連絡先も一緒に書いておきましょう。

気象庁
気象庁ワークショップ
経験したことのない大雨...その時どうする?

毎年、大雨による災害で命が失われています。
経験したことのない大雨...危険はあなたのすぐそばまで迫っているかも知れません。
あなたの、そして家族の命を守るためにどうしたら良いのでしょうか？
ワークショップに参加して仲間と一緒に考えましょう！

日時 平成**年**月**日()
午後**時~午後**時**分(開場 午後**時**分)

人数 30名

場所 気象庁 大会議室(5階)
気象庁正堂東側ロビーにて受付し、会場までご案内します。

お問い合わせ先 TEL:

① 告知文
② 日時
③ 場所
④ 連絡先

準備するもの

当日使用物品はいずれも前日までに、余裕を持って準備しておきます。様々なトラブルに対応できるよう、イベント毎に必要な分より多めに用意しましょう。マニュアル内資料及び、付録DVD内に準備リストを所収してありますので、合わせてご利用ください。



運営マニュアル

本紙。スタッフに配布し、都度確認をしながら進行していきましょう。



配布物

メモ用紙、アンケートなど、1日の活動を通して使用する配布資料。



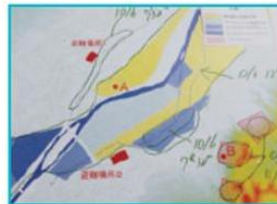
参加者名簿

参加者を公募する場合は、受付時に使用します。



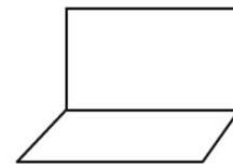
筆記具・文具

付箋、マジック、ペン、マグネットクリップ、のり、テープ等。グループワーク内で使用します。



地図

実施場所周辺の地形図2種類。グループワーク内で使用します。



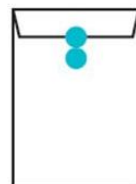
模造紙+養生テープ

A1サイズのを1グループにつき2枚程度。グループワーク内で使用します。



名札

参加者同士の自己紹介用に、必要に応じて用意しましょう。



おみやげ資料

レクチャーライドのコピーや、防災メールサービスの案内など、振り返り支援となる資料を必要に応じて用意しましょう。

パソコン

レクチャー、グループワーク時のライド投影用。

スクリーン

レクチャー、グループワーク時のライド投影用。白い壁などでも代用できます。

プロジェクター

レクチャー、グループワーク時のライド投影用。

壁掛け時計

参加者全員に見えやすい場所に設置しましょう。

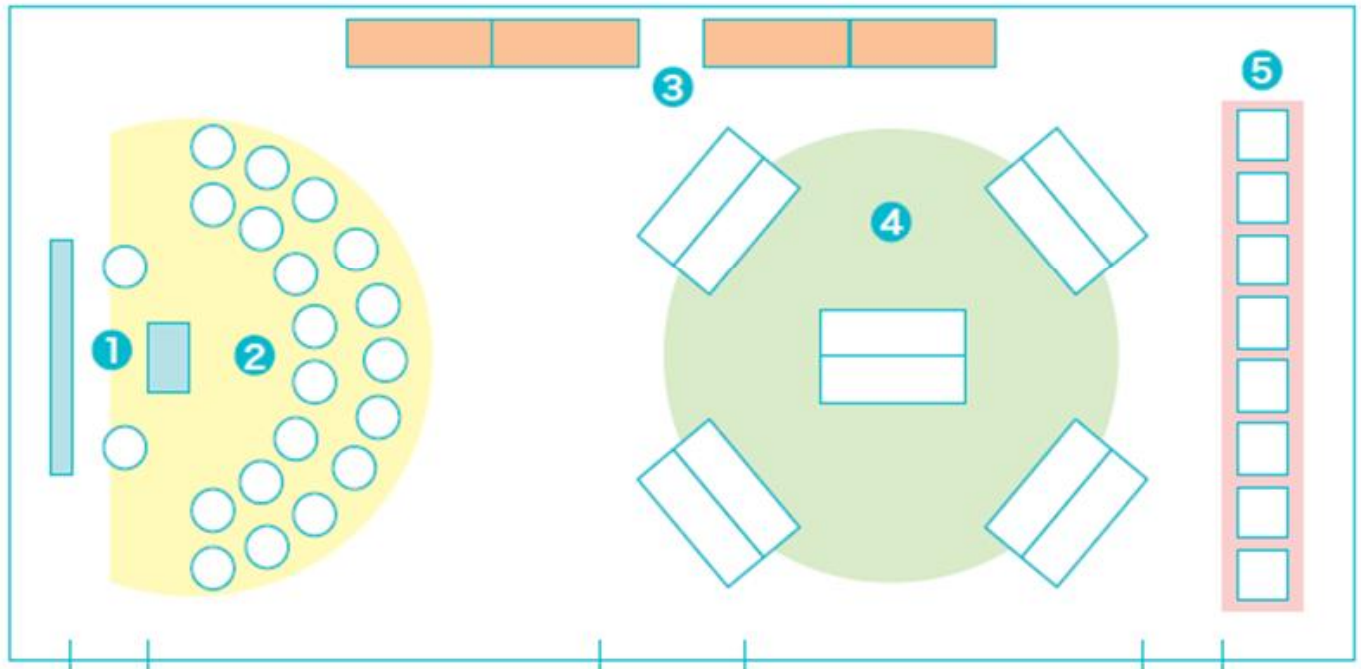
机・椅子

スタッフ、参加者人数分と予備分。

スピーカー

動画再生時に必要になります。参加者全員に聞こえやすい場所に設置しましょう。

会場レイアウト例



①前方スクリーン+プロジェクター（台）

レクチャー時、ワーク時にそれぞれスライドを映すのに使用します。ファシリテーターと専門家はスクリーンを挟む形で配置します。プロジェクターは参加者の妨げにならないように設置します。



②レクチャースペース

開始時はレクチャースペースにファシリテーター達を囲む形で、椅子のみを半円状に並べておきます。ワークに移行時、それぞれの椅子を持ってグループワークスペースに移動してもらいます。



③荷物置き場

レクチャー時、ワーク時それぞれの妨げにならない壁際などに参加者の荷物置き場を設置しておきます。



④グループワークスペース

参加人数に合わせた数の机を配置します。どの机も均等な距離感になるように気をつけます。



⑤見学席

関係者等が見学できるスペースを参加者の妨げにならないよう壁側に配置します。

- ※どのスペースもゆとりを持って設置し、スタッフが歩きやすいように通路を確保しましょう
- ※使用しなかった机・椅子は参加者に圧迫感を与えないよう、他の部屋などに移動しましょう
- ※予定通り設置し終わった後も、参加者の位置に座ってみるなどして、実際の視線や体感を確認しましょう
- ※これが基本の形ですが、使用できるスペースに合わせて創意工夫してみてください

ワークショップ進行

受付



開始20分前から、参加者リストの全員が来場するまで受付を行いましょう。

- 受付用名簿を元に受付を済ませていきます。
- 遅刻者対応として可能であればスタッフ1名が受付に残り、開始10分後までは受付の場に待機し、順次誘導しましょう。
- 当日が雨の場合は十分な容量のある傘立てを用意し、傘立てに関する案内も忘れずに行います。

会場誘導



受付を済ませた参加者を会場内の席までの確かつ安全に整理・誘導します。

- 会場には準備しておいた待機用のBGMを流しておきます。
- 事前に席順を決めている場合は席順を記したものを手元に置き、間違いのないよう誘導していきましょう。
- 配布資料、名札等はそれぞれの席に準備しておきます。
- この際、荷物置き場等も一緒に伝達します。

事前アンケート記入



用意しておいた事前アンケートを参加者に記入してもらいます。

ワークショップ進行

00:00 インTRODクシヨン

5 min

始まりの挨拶、
ワークショップのプログラムとルールを説明します。

- 専門家・ファシリテーターをそれぞれ適切な位置に配置します。

00:05 レクチャー

30min

専門家とファシリテーターで
スライドを用いてレクチャーを行います。

- 参加者は専門家とファシリテーターを囲むように座り、
レクチャーで学習した内容について、参加者との質疑応答を行います。参加者全員がスクリーンを見ることができているか意識しましょう。
- 質問が出にくい場合には、ファシリテーターが促すような声掛けをします。
- グループワークに関わる質問には、答えないようにしてください。

00:35 休憩

5min

レクチャーとワークの間に10分間の休憩が入ります。

- 参加者にトイレの位置を伝えましょう。
- 休憩の間にスタッフは、会場レイアウトを
レクチャー用からワークショップ用に配置します。
- 休憩中は待機用BGMを流します。

ワークショップ進行

00:40

グループワーク

70min



6名1グループとなって、ワークシート、地図を使用してワークを行います。

- 参加者にはそれぞれグループ内で自己紹介をしてもらいましょう。
- 専門家によるワークの説明終了後、ワーク時に使用する設定を決定するくじを、各班のくじ引き係に引いてもらいます。
- 参加者に
 - ①リーダー ②記録 ③発表 ④くじ引きの役割を決めてもらいます。
- 専門家・ファシリテーターは各テーブルをバランスよく見て回りましょう。



- グループワークには3つのステップがあり、それぞれの中の議論の持ち時間が

場面 1	10分
場面 2	10分
場面 3	20分

に設定されています。

(説明の時間は議論時間に含まれません。)

それぞれ時間内におさまるよう、スムーズな進行を心がけましょう。

01:50

発表・まとめ

30min



グループワークで検討した場面1～場面3のワークシートを模造紙に貼った上で壁に貼り出し、発表します。

- 発表後に各グループ間で質疑を行います。
できるだけ並べて貼り出すことで、活発な質疑を促します。
- 専門家・ファシリテーターは各発表、発表全体に対し、簡単な講評を行い、全体をとおしてまとめます。

02:20

事後アンケート記入



最後にアンケートを記入してもらい、随時解散します。

記録を撮る場合

イベントの記録は思い出として残るだけでなく、継続的な学習の助けになります。ワークショップの様子分かる写真や動画があると、次回告知の手助けになります。スタッフの動きを記録しておくことで、後に運営側のふりかえりを促し、回数を重ねていくにつれ、より洗練された運営方法を構築していくことにもつながります。

●写真

継続的な実施計画の際は、会場設営からリハーサル、及びイベントの全てを記録しておくのが良いでしょう。

記録箇所は

- 会場全景
- 会場入口、受付（ある場合）
- ファシリテーター、専門家
- 参加者（事前に撮影許可を得る）
- 各スタッフ

等、イベントの全容が分かるように心がけます。

光量不足、ピンボケ、手ブレ等による失敗がなるべく無いよう、慎重に撮影しましょう。特にファシリテーター、専門家については各個人及び両者のアップを十分に記録しましょう。イベント全体が活気ある、魅力的な様子に見えるためには、初めのうちは、とにかく沢山シャッターを押すのがコツです。

●写真

レクチャーや全体の様子を記録する場合は、あらかじめ三脚などで固定したビデオカメラで、和気あいあいとしたワーク風景を記録する際には、手持ちビデオカメラでと、場面や状況に合わせて対応しましょう。また、設備に余裕があれば音声記録用のマイクを使用するとより効果的です。



イベントの最中はなるべくレクチャー、ワークそれぞれの邪魔をしないよう気を配りながら撮影しましょう。



参加者の撮影許可が得られない場合に関しては、背後からの記録とする等個人が特定できないよう配慮しましょう。





経験したことのない 大雨 その時どうする？

3

レクチャー

レクチャー&シナリオの使い方
実施状況に合わせたアレンジ方法
準備

[イントロダクション]


- ・オープニング
- ・自己紹介（ファシリテーター）
- ・自己紹介（専門家）
- ・今日の活動の流れ
- ・ヒント

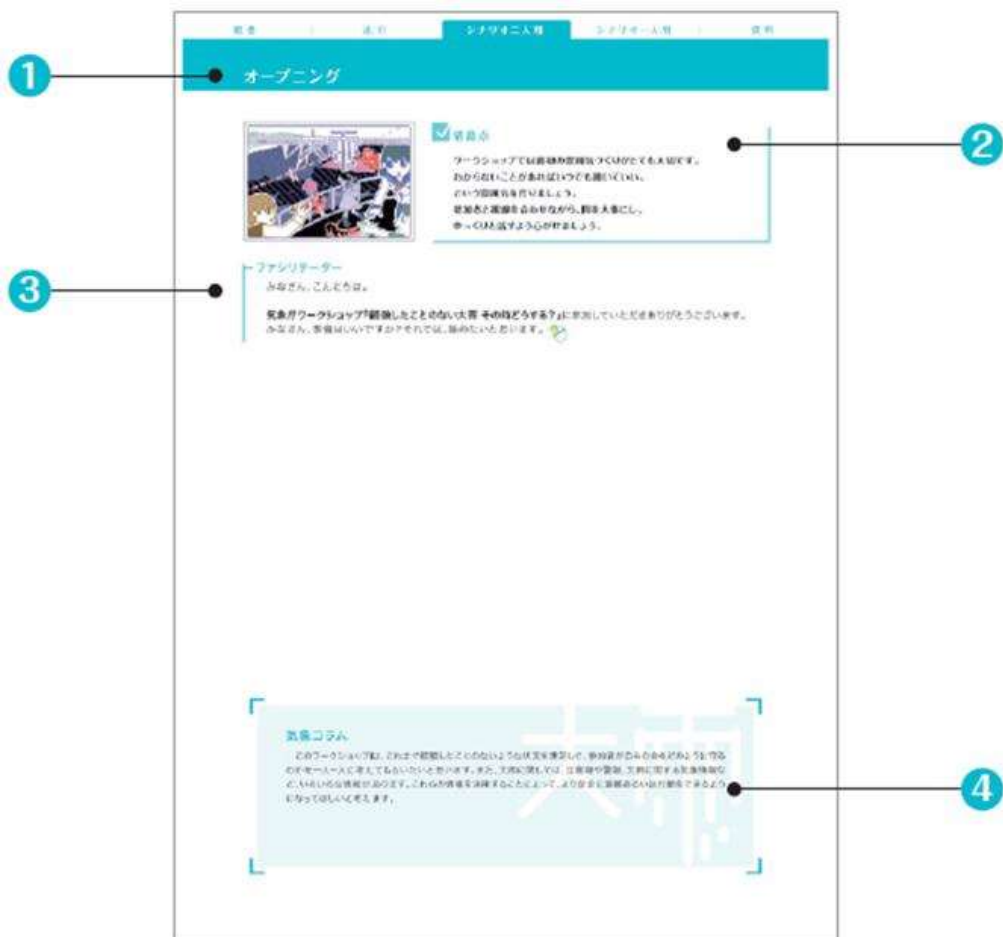
[レクチャー]

- ・強い雨
- ・川の水が溢れる（洪水）
- ・水害（洪水害、浸水害）
- ・斜面が崩れる（土砂災害）
- ・災害から命を守るためには
- ・地域の災害リスクを知る（ハザードマップ）
- ・地域の災害リスクを知る
- ・避難行動のタイミング「警戒レベル」
- ・市区町村が発令する「避難情報」
- ・警戒レベルと防災気象情報（警戒レベル相当情報）
- ・地域の細かい状況がわかる情報（キキクル（危険度分布））
- ・自ら積極的に情報を手に入れる
- ・災害への心構え
- ・質問タイム

レクチャー&シナリオの使い方

スタッフの人数やファシリテーターの前提知識に制限なく、なるべく多くの方々にこのワークショップを行って頂けるよう、汎用性を持たせたレクチャーとシナリオを作成しました。

- ①**タイトル** スライドがワークのどの段階を示すかのタイトルです。重要な場面には **A B C** のマークを記しています。(次頁参照)
- ②**留意点** 進行して行く上で気に留めたい留意点を記しています。
- ③**シナリオ台本** シナリオを時間通りスムーズに進行するための台本です。特に強調して読んだ方がいい箇所は、太字で書かれています。一字一句覚える必要はありません。場面や個性に合わせて言い回しを変えましょう。
マウスを左クリックして、スライドを進めたり、アニメーションを動かすタイミングにクリックマーク  を入れています。
- ④**気象コラム** 気象や避難行動等に関する知識がそこまで深くなくても進行できるよう気象庁からのコラムを載せています。時間が余りそうな時や、参加者からの意欲的な質問が出た時などに活用ください。



実施状況に合わせたアレンジ方法

学校や各自治体によっては「開催時間を短くしたい」というご要望もあるかと思えます。下記に、コンパクトに実施するためのアレンジ方法を掲載します。シナリオの重要な部分には、タイトルの前に **A** **B** **C** のマークを記しています。これらは次ページから対応していますので、合わせてお読みください。

基本形 (概ね2時間半)

イントロダクション	5分
A レクチャー	30分
(休憩)	5分
[準備]	10分
[場面1] 説明	5分
[場面1] 検討	10分
B [場面2] 説明	5分
[場面2] 検討	10分
(休憩)	5分
[場面3] 説明	5分
[場面3] 検討①	10分
[場面3] 検討②	10分
C [発表] 準備	10分
[発表] 発表・講評	15分
[まとめ]	5分

✓ 留意点

時間は目安です。参加者の様子に応じて適宜、長く、または、短くしてください。

アレンジ① (概ね1時間半)

イントロダクション	5分
A レクチャー	30分
(休憩)	5分
[準備]	10分
[場面1] 説明	5分
B [場面2] 説明	5分
[場面2] 検討	10分
C [発表] 準備	5分
[発表] 発表・講評	10分
[場面3] 説明	10分
[まとめ]	5分

✓ 留意点

グループワークの「検討」する部分を減らし、専門家による解説に置き換えた短縮案です。参加者が、単に、「聴くだけ」とならないよう、問いかけながら話を進めてみてください。

アレンジ② (2日に分割)

1日目	
A レクチャー	30分
2日目	
イントロダクション	5分
[準備]	10分
[場面1] 説明	5分
[場面1] 検討	10分
B [場面2] 説明	5分
[場面2] 検討	10分
(休憩)	5分
[場面3] 説明	5分
[場面3] 検討①	10分
[場面3] 検討②	10分
C [発表] 準備	10分
[発表] 発表・講評	15分
[まとめ]	5分

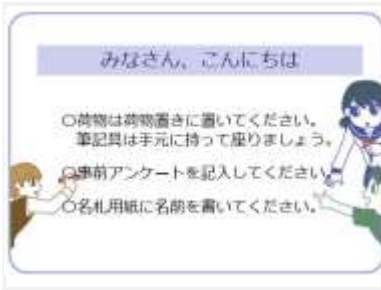
✓ 留意点

2日に分けて実施する案です。2日目のグループワークを、アレンジ1のように短縮する案もあります。なお、グループワークでは、レクチャーの内容を振り返ることができるよう、参加者の様子を見ながら、適宜、助言という形でコメントする等、工夫してみてください。

準備

✓ 留意点

全員で、参加者を明るい笑顔で迎えましょう。
スタッフ同士は固まらず、私語しないようにしましょう。
貴重品と筆記具以外は、荷物を荷物置場に置くように誘導しましょう。
参加者の座る席は自由です。

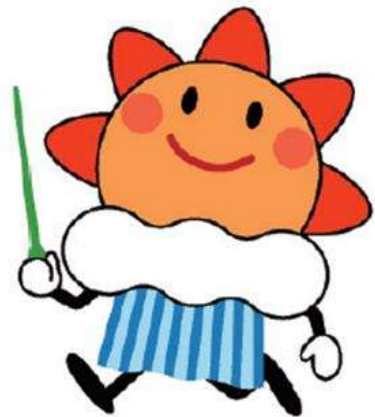


ファシリテーター

荷物は荷物置きに置いてください。筆記具は手元に持って座りましょう。

まず、座席にある事前アンケートを記入してください。
そのあと小さな紙に名前を書いてください。
今日呼ばれたい名前を、苗字でもあだ名でもかまいませんので
大きく見やすくマジックで書きましょう。
併せて10分で終わるよう作業をお願いします。

事前アンケート記入、名札づくり終了後



気象コラム

このワークショップは、これまで経験したことのないような大雨を想定して、参加者が自らの命をどのように守るのかを一人一人に考えてもらいたいと思います。また、大雨に関しては、注意報や警報、大雨に関する気象情報など、いろいろな情報があります。これらの情報を活用することによって、より安全に避難あるいは行動をできるようにしてほしいと考えます。

【イントロダクション】オープニング



✓ 留意点

ワークショップでは最初の雰囲気づくりがとても大切です。わからないことがあればいつでも聞いていい、という雰囲気を作りましょう。参加者と視線を合わせながら、間を大事にし、ゆっくりと話すよう心がけましょう。

ファシリテーター

みなさん、こんにちは。
気象庁ワークショップ『経験したことのない大雨 その時どうする?』に参加していただきありがとうございます。

みなさん、準備はいいですか？

それでは、始めたいと思います。



気象コラム

平成30年7月豪雨を踏まえた 水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）より
平成30年12月 中央防災会議 防災対策実行会議

今回の豪雨災害は、行政主導の避難対策の限界を明らかなものとし、国民一人ひとりが主体的に行動しなければ命を守ることは難しいということを我々に突き付けた。行政には、引き続き、避難対策の強化に向け全力で取り組むことを求めるが、加えて、国民の皆様にも、下記のことを強く求める。

＜国民の皆さんへ ～大事な命が失われる前に～＞

- ・ 自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- ・ 気象現象は今後更に激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。
- ・ 行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
- ・ 行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- ・ 避難するかしないか、最後は「あなた」の判断です。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。
- ・ まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいたかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われる」との意識を忘れないでください。
- ・ 命を失わないために、災害に関心を持ってください。
 - あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか？
 - 危険が迫ってきたとき、どのような情報を利用し、どこへ、どうやって逃げますか？
- ・ 「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助など、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

【イントロダクション】自己紹介（ファシリテーター）

✓ 留意点

その場に居る人が話しやすくなる環境づくりを心がけましょう。
自己紹介で話す内容は自己流にアレンジして構いませんが
1分程度が目安です。話が長くなり過ぎないように注意しましょう。



ーファシリテーター

それでは、まず本日担当させていただく私から、自己紹介をさせていただきます。
私は、本日のワークショップでファシリテーターをします、〇〇と申します。
司会進行役として、皆さんと一緒に、防災学習を楽しく進めていきたいと思ひます。
よろしくお願ひします。🕒

気象コラム

【避難行動の目的】

「避難行動」は、数分から数時間後に起こるかもしれない自然災害から「生命又は身体を保護するための行動」である。

居住者等は、身の安全を確保するという観点から、災害時に適切かつ円滑な避難行動をとることができるよう、平時から次に掲げる事項をできる限り事前に明確に把握するとともに、当該避難行動をとれるよう準備・訓練等をしておく必要がある。

- ① 災害種別毎に、自宅・施設等がある場所にどのような命を脅かす脅威があるのか
- ② それぞれの脅威に対して、どのような避難行動をとれば良いか（避難先、避難経路、避難手段、家族等との連絡手段等）
- ③ どのタイミングで避難行動をとれば良いか

〔内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「2.1避難行動の目的」より〕

[イントロダクション] 自己紹介（専門家）

✓ 留意点


ファシリテーターから専門家を紹介することで、対話のバトンを渡します。専門家を交えての学習プログラムは、参加者にとって新鮮な経験になります。



—ファシリテーター

そして本日皆さんに様々なヒントをくれる専門家を紹介します。気象台の〇〇さんです。

—専門家

みなさん、はじめまして。〇〇と申します。私は気象台で、天気予報や防災気象情報を皆さんにより役立つものにするにはどうすればよいのか、日々考える仕事をしています。本日はみなさんと一緒にお話しながら、楽しく考えていこうと思いますので、よろしくお願いします。

気象コラム

【分散避難について】

「避難」とは、文字通り「難」を「避」けることであり、小中学校や公民館等の指定緊急避難場所に行くことだけが避難ではなく、それ以外にも安全な親戚・知人宅やホテル・旅館等の避難先に立退き避難したり、自らの判断で屋内安全確保をする等、様々な避難行動がある。市町村は、指定緊急避難場所の混雑回避等のためにも、居住者等に対して様々な避難行動を推奨することが望ましい。指定緊急避難場所への避難以外も含め様々な避難行動をとること、またこのような避難行動のあり方は「分散避難」と呼称される場合がある。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「関連情報②「分散避難」について」より]

【イントロダクション】今日の活動の流れ



✓ 留意点

ワークショップの中で重要なのが、「タイムテーブル」です。これから進める活動はどのようなものなのか、何時に終了するのかを手短かに説明し、その場に居る全員で共有し、合意をとります。参加者はこれによって安心して学ぶことができます。プログラムの全体構造を先に説明することで、参加者に見通しを与えます。

ファシリテーター

今日の活動の流れはこのようになっています。
まず、イントロダクション。今がこの時間です。
この後専門家の〇〇さんとお話しながら、みなさんと一緒に大雨災害からの身の守り方について学んでいきます。その後休憩をはさみ、〇班に分かれて、実際にどう考えて行動するかのグループワークをします。

最後に発表・講評をし、事後アンケートをして*時*分に終了です。



気象コラム

【避難行動の分類】

身の安全を確保するためにとる次の全ての行動が避難行動ですが、指定緊急避難場所や安全な親戚・知人宅等に避難する「立退き避難」が避難行動の基本です。

避難行動	避難先	(詳細)	居住者等があらかじめ確認・準備すべきことの例
緊急安全確保	・安全とは限らない自宅・施設等 ・近隣の建物 (適切な建物が近隣にあると限らない)	・上階へ移動 ・上層階に留まる ・崖から離れた部屋に移動 ・近隣に高く堅牢な建物があり、かつ自宅・施設等よりも相対的に安全だと自ら判断する場合に移動等	・急激に災害が切迫し発生した場合に備え、自宅・施設等及び近隣でとりうる次善の行動を確認
~~~~~警戒レベル4までに必ず避難~~~~~			
立退き避難	安全な場所	・指定緊急避難場所(小中学校・公民館・高台・津波避難ビル・津波避難タワー等) ・安全な自主避難先(親戚・知人宅、ホテル・旅館等)等	・避難経路が安全かを確認 ・自主避難先が安全かを確認
屋内安全確保	安全な自宅・施設等	・安全な上階へ避難 ・安全な上層階に留まる等	・ハザードマップ等で浸水深や浸水継続時間等を確認し、自宅・施設等で安全を確保でき、かつ、浸水による支障※を許容できるかを確認・長時間の孤立に備え備蓄等を準備
※ 支障の例：水、食糧、薬等の確保が困難になるおそれ、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれ			

【内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「2.3避難行動の分類(立退き避難、屋内安全確保、緊急安全確保)」より】

## [イントロダクション] ヒント

○この後のグループワークでは、みなさんが住む架空の町で豪雨に関するシミュレーションをします。

○これから聞くお話の中にはシミュレーション攻略のヒントがたくさん隠れているのでたくさんメモをとってくださいね！



### ✓ 留意点

メモをとってもらうことで、主体的に聴くことを促します。書く行為そのものや、参加者が書いたメモを持ち帰ることで振り返りとなり、深い学習になることを促しています。知識の定着を期待できます。

## ファシリテーター

今日のワークショップではレクチャーだけではなく、グループワークが入っています。グループワークでは、みなさんに架空の町に住んでもらい、豪雨に関するシミュレーションをしてもらいます。

これからするレクチャーには、後で行うシミュレーションをクリアするヒントがたくさん隠れています。配布した資料の中にあるフライヤーの裏のメモ用紙を使って、メモをとりながらしっかり聞いてくださいね。

それでは、レクチャーを始めます。



## 気象コラム

気象庁では、天気予報等において一日の時間細分を下表のように定め用いています。基本的に、テレビの天気予報等でも、同じ言葉が用いられています。

			日中		夜		
午前中			正午		午後		
<b>0-3(時)</b>	<b>3-6</b>	<b>6-9</b>	<b>9-12</b>	<b>12-15</b>	<b>15-18</b>	<b>18-21</b>	<b>21-24</b>
未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く
				昼頃			

## A 【レクチャー】強い雨



### ✓ 留意点

ファシリテーターと専門家は、できるだけ自然な会話を心がけましょう。掛け合いの感じを出すことで、参加者を巻き込みます。

### ファシリテーター

はじめにこちらの映像を見てもらいましょう。  
…かなり強い雨ですね？

### 専門家

はい。こちらはいわゆる「滝のように降る雨（又は「非常に激しい雨）」と言われるような雨です。  
1時間に50ミリから80ミリという強さで降っています。



### 気象コラム

大雨が続くといろいろな災害が発生します。代表的な災害は、土砂による災害と川の水が溢れたり（洪水）、都市部などでは浸水災害などがあります。いずれも、生命にかかわる災害です。

大雨のなかを移動すると危険を伴う場合があります。自分の命、大切な人の命を守るためには、天気が荒れる前、災害発生前に避難することが必要です。

#### 【参考】雨の強さと降り方

1時間雨量 (mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅を想定）	雨の音で話し声が良く聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロブレーニング現象）	車の運転は危険	



## A 【レクチャー】川の水が溢れる（洪水）



### ✓ 留意点

普段、ほとんど水が流れていないような川でも、降った雨が集まり、急激に水位が上昇することをイメージできるよう伝えることがポイントです。

### ファシリテーター

大雨になると、洪水災害や土砂災害に警戒が必要とききますが、どのようなものなのでしょう。

### 専門家

大雨になると、あっという間に水位が上昇する川もあるので、油断は禁物です。特に、「川の高さと同じ場所」や「堤防より低い場所」は、川の水が溢れると危険です。



## 急な！ 大雨・雷・竜巻 から身を守ろう！



いつも遊んでいる川が、こんなことに・・・



10分後

急な大雨により川の水が突然増えました。  
水遊びをしていた子どもも大人も流され、5人が亡くなりました。

### 気象コラム

発達した積乱雲（雷雲）の下では、「急な大雨」「雷」「竜巻などの激しい突風」が発生します。

川や用水路の急な増水、道路の冠水、落雷、竜巻などの激しい突風などにより、子どもたちが危険にさらされます。これらによる災害や事故はちょっとした心掛けと行動で防ぐことができます。

気象情報をこまめに確認するとともに、積乱雲が近づく兆しを感じたら、すぐに危険な場所から離れる、丈夫な建物などにしばらく避難するなど、「自分の身は自分で守る」ことが大切です。これらのことを子どもたちに教えてあげてください。

また、人には、「たぶん大丈夫」「自分は大丈夫」と自分に都合良く考えてしまう傾向があります（「正常化の偏見」といいます）。このような考えを捨てて、安全第一の対応をお願いします。

←気象庁リーフレット

「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/ooame-kaminari-tatsumaki/index.html>

## A 【レクチャー】水害（洪水害、浸水害）



### ✓ 留意点

水は、低い方へ低い方へ流れ、集まります。  
それをイメージできるように伝えることがポイントです。

### 専門家

降った雨の水は、低い方へ低い方へ集まってくるので、川の近くでなくても、あなたの家が、「周囲より低い場所」にあると危険になる場合もあります。地下室や地下街、道路ではアンダーパスのような場所も注意が必要です。

### 専門家

写真は、川の水が溢れている状況です。どこが川でどこが道路かわからなくなっています。

大量の水が住んでいる地域に流れ込み、皆さんの背を超える深さにまで水が溜まることもあります。

川の水が溢れなくても、道路の側溝や下水溝などから水が溢れだし、住宅が浸水することもある

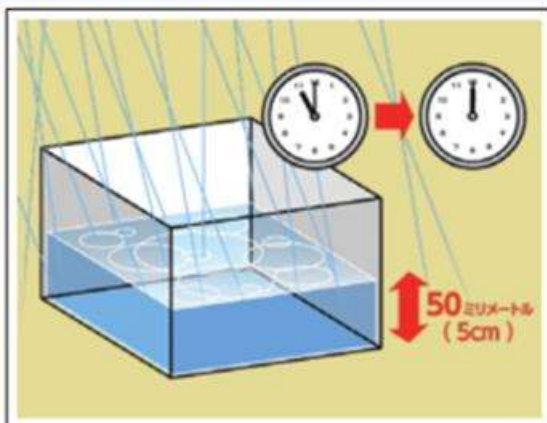
、、、ということも覚えておいてください。



### 気象コラム

「1時間に50ミリの雨」というのは、雨水が別の場所に流れず、そのままたまる状態で、「1時間に雨水が50ミリメートル（5センチメートル）の高さまでたまる」規模の雨です。

「たった50ミリ」と思われるかもしれませんが、1平方メートルあたり50リットルになります。傘をひらいたときの面積がおおむね1平方メートルなので、1時間傘をさしていると、傘には牛乳パック50本もの雨が当たることとなります。そして、まわりに降った大量の雨水があつまると・・・



## A 【レクチャー】 斜面が崩れる（土砂災害）



### ✓ 留意点

斜面が崩れることをイメージできるように伝えることがポイントです。

#### 専門家

崖があると、土砂がくずれてくるかもしれません。

#### 専門家

崩れ落ちるまでの時間がとても短かく、予測の難しい現象なので、逃げ遅れて命を失うことも多い大変恐ろしい災害です。

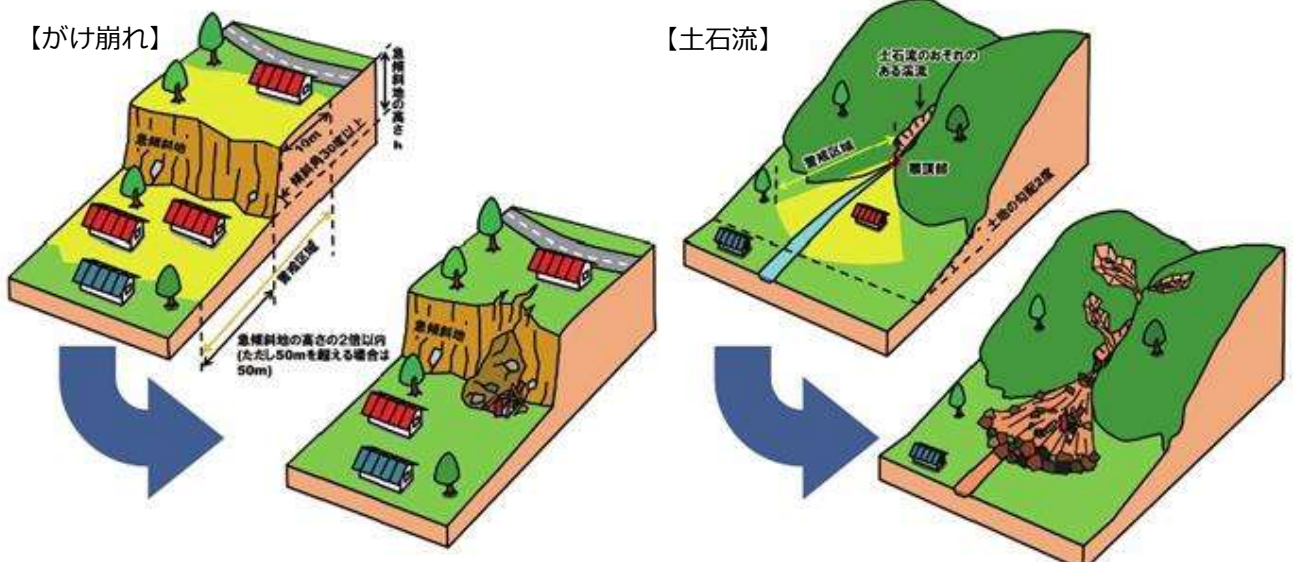
右の写真では、奥の山が崩れ、手前の住宅が土砂に飲み込まれています。崩れてくる土砂の勢いは凄まじく、住宅を破壊してしまうのです。



### 気象コラム

土砂災害は、すさまじい破壊力をもつ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。

「がけ崩れ」や「土石流」は一瞬のうちに発生するため、逃げ遅れが起こりやすいのが特徴です。早めに安全な所への避難が重要です。



土砂災害には、山の斜面や自然の急傾斜のがけ、人工的な造成による斜面が突然崩れ落ちる「がけ崩れ」、山腹や川底の石や土砂が集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される「土石流」等の災害があります。

## A 【レクチャー】 災害から命を守るためには

大雨災害から身を守るためには…？



留意点

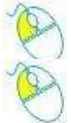
- ①地域の災害リスクを知る
- ②災害から身を守るための知識を持つ

### ファシリテーター

さて、これまで大雨によって起こる様々な恐ろしい災害を見てもらいました。では、このような災害から身を守るためにはどうしたら良いのでしょうか…？

### 専門家

災害から身を守るためには、まず普段からの備えが必要です。



①自分の住んでいる地域に潜んでいる危険を知る。



②様々な災害から身を守るための知識を持つ。

いざ災害が起きそうな時に、得た知識をフルに活用して身を守るために行動出来るかが肝心です。

### ファシリテーター

ではそのための普段からの備えとはどういったものなのか見ていきましょう。



## 気象コラム

気象災害は、地域によって異なります。例えば、九州などでは梅雨前線による大雨災害が多いですが、北海道は大雨災害の他にも大雪や暴風による災害が多くなります。また、川の近くか山の近くかによっても発生する災害が異なります。自分の住んでいる地域はどのような災害が発生するのか、地図や実際の現場を見て確かめたり、過去の災害記録を調べることも必要です。

市町村では、次ページのスライドのように、災害発生の可能性のある地域をいろいろな方法で示しています。多くの市町村がHPなどで公開していますので、確認しましょう。



## A 【レクチャー】地域の災害リスクを知る（ハザードマップ）



### ✓ 留意点

地域のハザードマップを確認することは、自分の命、大切な人の命を守る、基本中の基本であることを認識するよう伝えることがポイントです。なお、ハザードマップは、起こりうるすべての災害を表現しているとは限らないことも重要なポイントです。

### ファシリテータ

みなさんはこちらの図、見たことありますか？（参加者に問いかける）

### 専門家

この図は、ハザードマップと言います。  
大雨が降ったことを想定して、川が溢れたり、堤防が壊れたりした時、どこにどれくらいまでの深さの水が押し寄せるかを示しています。  
また、がけ崩れや土石流などの土砂災害が起きる可能性のあるところを示しています。

### ファシリテータ

ハザードマップは、危険な場所をすべて教えてくれているのでしょうか？

### 専門家

残念ながら、そうではありません。

ハザードマップで表現されていない「災害リスク」もあります。



### 気象コラム

国土地理院が提供している「地理教育の道具箱」の中に、地図を使って防災を学習できるコンテンツがあります。

災害が起こりやすい地形は、地図でも知ることができるので、ぜひ、「地理教育の道具箱」も見て、災害リスクの見つけ方を学んでください。

←国土地理院「地理教育の道具箱」

<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/>

## A 【レクチャー】地域の災害リスクを知る

### 地域の災害リスクを知る



- ・避難場所はどこ？
- ・他に避難できそうなところは？
- ・避難ルートは？迂回するとしたら？
- ・避難ルートに危ないところはないかな？
- ・過去に災害のあった場所はないかな？

### ✓ 留意点

日ごろから、自分自身で、地域の「災害リスク」をしておくことも大事だということを伝えてください。

### ファシリテータ

みんなで地図を持って町を見ているようですね。  
こちらの写真は何をしているところでしょうか。（参加者に問いかける）

### 専門家

これは地図を見ながら実際に町を歩いてみて、避難ルートを確認したり、避難ルートの危ないところを調べている様子です。

### ファシリテータ

先ほどお話しがあったように、  
川の近くや周囲より低くなっている場所、斜面の近くなど、  
まずは自分が住んでいるところや、よく行く場所に

どのような危険が潜んでいるかを知ることが大事なんですね。



## 気象コラム

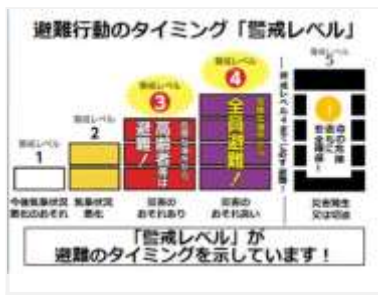
地域では、小学校や役場、公民館などが避難場所になっています。あらかじめ、万一の時に避難しなければならないときの避難先を平常時に確認しておきます。また、大雨だけでなく地震や津波などの災害も考えると、近くの避難先だけでなく、複数の避難場所や、頑丈な構造の高い建物などを考えておきます。

避難経路は、例えば大雨の場合は、避難する経路に小川や側溝がある道路は浸水の可能性がありますので、その道路は避ける、等を考えて避難ルート（経路）を探します。最近災害が発生していなくても、過去に災害が発生していることもあります。各市町村では過去の災害のとりまとめも行っていますので、調査して自分の住んでいる地域にそうした災害が無かったか調べましょう。

東日本大震災でも「想定外」といわれていましたが、過去の災害の記録を調べると同様な津波災害があったことがわかっています。



## A 【レクチャー】避難行動のタイミング「警戒レベル」



### ✓ 留意点

「警戒レベル」は、皆さんの避難のタイミングを示していることを、しっかり理解・認識してもらうことがポイントです。特に、「警戒レベル5」となる前に、避難を完了しておくことが重要です。そのことを強調してください。

### ファシリテータ

身近な「災害リスク」を確認したら、次は、その「災害リスク」から命を守る方法を確認しましょう。

皆さんは、「警戒レベル」を聞いたことがありますか？（参加者に問いかける）

### 専門家

「警戒レベル」は、皆さんの避難行動のタイミングを示しています。ひとつずつ見ていきましょう。警戒レベルは5段階あります。

「警戒レベル1」は、今後、気象状況が悪化するおそれがある状況です。天気予報など、最新の情報に注意を払いましょう。

「警戒レベル2」は、気象状況が悪化している状況です。避難先や避難経路、避難のタイミングを再確認してください。

「警戒レベル3」からが、いよいよ避難をはじめると示す、聞き逃さないレベルになってきます。

「警戒レベル3」は、災害が発生するおそれがある状況です。危険な場所から「高齢者などは避難」です。これは、お年寄りに限らず、障がいのある方、小さい子どもなど、避難に時間がかかる人とその支援者は速やかに避難を開始するという意味です。その他の人も、避難の準備をしたり、自主的に避難するレベルです。

次に、「警戒レベル4」は災害が発生するおそれが高い状況です。これは、危険な場所にいる人は、速やかに全員、安全な場所へ避難するレベルです。

「警戒レベル3」で、高齢者など、避難に時間のかかる方は、避難。  
「警戒レベル4」で、危険な場所にいる人は、安全な場所へ全員避難です。

最後に、「警戒レベル5」です。これは、すでに災害が発生している可能性が極めて高いレベルです。避難先への移動が難しくなっている可能性もあり、

「警戒レベル5」となる前に、避難を完了しておくことが大事です。



## A 【レクチャー】市区町村が発令する「避難情報」

### ✓ 留意点

市区町村が発令する「避難情報」で確実に避難することがポイントです。特に、「警戒レベル5」となる前に、避難を完了しておくことを強調してください。

警戒レベル	状況	命の危険にさらされる恐れ	行動を促す情報
5	災害発生 又は被害	命の危険にさらされる恐れ	緊急安全確保 ¹⁾
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等避難 ²⁾	高齢者等避難
2	災害発生 のおそれ	避難の準備は 完了	避難準備 (無発令)
1	災害発生 のおそれ	災害への心構えを 準備	避難準備 (無発令)

### ファシリテータ

「警戒レベル」に対応して、市区町村が発令する「避難情報」があります。  
みなさん、知っていますか？（参加者に問いかける）

### 専門家

「避難情報」は、3種類あります。この3種類、それぞれの意味を確認します。

警戒レベル3は、「高齢者等避難」  
警戒レベル4は、「避難指示」  
警戒レベル5は、「緊急安全確保」です。

避難に時間のかかる、高齢の方、障がいのある方、乳幼児などとその支援者の方は、「警戒レベル3 高齢者等避難」で避難開始です。

「警戒レベル4 避難指示」で、危険な場所から全員避難です。

「警戒レベル5 緊急安全確保」は必ず発令される情報ではありません。  
発令されたとしても、災害が発生・切迫した状況ですから、  
少しでも安全な場所へ移動できたとしても、身の安全を確保できるとは限らない  
ということ強く認識しておく必要があります。

従って、「警戒レベル4」までに必ず避難を完了しておくことが  
重要になってきます。

### 専門家

避難する先は、学校や公民館など、市区町村の指定する緊急避難場所だけとは  
限りません。  
安全な場所にお住いの知人や親せき、ホテルや旅館という選択肢もありますし、  
自宅が安全なら、自宅にとどまり安全確保という選択肢もあります。

### 気象コラム

#### 【警戒レベルの色】

内閣府では、5段階の警戒レベルの違いを分かりやすく伝え、かつ、様々な色覚の人にも可能な限り分かりやすいものとなるよう配色を定めています。

警戒レベル	RGB値	CMYK値
警戒レベル5	12,0,12	30,40,0,100
警戒レベル4	170,0,170	50,85,0,5
警戒レベル3	255,40,0	0,85,95,0
警戒レベル2	242,231,0	0,0,100,5
警戒レベル1	255,255,255	0,0,0,0

# 【気象コラム】避難情報等と居住者等がとるべき行動

## 気象コラム

警戒レベルとは、災害発生のおそれの高まりに応じて5段階に分類した「居住者等がとるべき行動」と、その「行動を促す情報」（避難情報等：市町村が発令する避難情報と気象庁が発表する注意報等）とを関連付けるものである。

警戒レベルの一覧表（避難情報等と居住者等がとるべき行動）	
避難情報等	居住者等がとるべき行動等
<b>【警戒レベル5】 緊急安全確保</b> (市町村長が発令)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発令される状況：災害発生又は切迫（必ず発令される情報ではない）</li> <li>●居住者等がとるべき行動：命の危険 直ちに安全確保！</li> <li>・指定緊急避難場所等への立退き避難することがかえって危険である場合、緊急安全確保する。</li> <li>ただし、災害発生・切迫の状況で、本行動を安全にとることができるとは限らず、また本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない。</li> </ul>
警戒レベル5に至る前の、警戒レベル3高齢者等避難や警戒レベル4避難指示が発令されたタイミングで避難することが極めて重要	
<b>【警戒レベル4】 避難指示</b> (市町村長が発令)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発令される状況：災害のおそれ高い</li> <li>●居住者等がとるべき行動：危険な場所から全員避難</li> <li>・危険な場所から全員避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。</li> </ul>
<b>【警戒レベル3】 高齢者等避難</b> (市町村長が発令)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発令される状況：災害のおそれあり</li> <li>●居住者等がとるべき行動：危険な場所から高齢者等は避難</li> <li>・高齢者等※は危険な場所から避難（立退き避難又は屋内安全確保）する。</li> <li>※避難を完了させるのに時間を要する在宅又は施設利用者の高齢者及び障害のある人等、及びその人の避難を支援する者</li> <li>・高齢者等以外の人も必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングである。例えば、地域の状況に応じ、早めの避難が望ましい場所の居住者等は、このタイミングで自主的に避難することが望ましい。</li> </ul>
<b>【警戒レベル2】 大雨・洪水・高潮 注意報</b> (気象庁が発表)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発表される状況：気象状況悪化</li> <li>●居住者等がとるべき行動：自らの避難行動を確認</li> <li>・ハザードマップ等により自宅・施設等の災害リスク、指定緊急避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認・注意するなど、避難に備え自らの避難行動を確認</li> </ul>
<b>【警戒レベル1】 早期注意情報</b> (気象庁が発表)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発表される状況：今後気象状況悪化のおそれ</li> <li>●居住者等がとるべき行動：災害への心構えを高める</li> <li>・防災気象情報等の最新情報に注意する等、災害への心構えを高める。</li> </ul>

〔内閣府「避難情報に関するガイドライン」の  
「3.2 避難情報等と居住者等がとるべき行動（警戒レベルの詳細）」より〕

# A [レクチャー] 警戒レベルと防災気象情報（警戒レベル相当情報）

## 留意点

市区町村が発令する「避難情報」で確実に避難することがポイントです。しかし、外の状況はどんどん変わっていきますので、市区町村から「避難情報」が発令されていなくても、気象庁などが発表する防災気象情報を参考にして、自主的に早めに避難することも重要になってきます。

## ファシリテータ

避難のタイミングを考えると、参考となる防災気象情報がありますね。

## 専門家

「防災気象情報」は気象庁など国や都道府県が出す情報です。「警戒レベル」に関連した情報なので、「警戒レベル相当情報」といいます。みなさんが自ら避難行動をとる際、判断の参考となる役割を担っています。

「洪水警報」、土砂災害に警戒を呼び掛ける「大雨警報」が発表された場合は、警戒レベル3に相当します。

そして、「土砂災害警戒情報」が発表された場合は、警戒レベル4に相当します。つまり、「警戒レベル4 避難指示」と同じぐらい危険！と、思ってください。

大雨警報や土砂災害警戒情報などは、どの地域が危険か誰でもわかるよう、お住まいの市町村の名前を特定して発表しています。

### 警戒レベルに相当する気象庁等の情報

市町村が発令する警戒レベル（避難情報）で確実に避難  
気象庁等が発表する防災気象情報を参考に自主的に早めの避難

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等	防災気象情報（警戒レベル相当情報）
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保	5 冠水発生情報 大雨特別警報（土砂災害）
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞				
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示	4 冠水危険情報 土砂災害警戒情報
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難	3 冠水警戒情報 洪水警報 大雨警報
2	気象状況悪化	自らの避難 行動を確認	大雨注意情報 洪水注意情報	2 冠水注意情報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への 心構えを固める	早期注意情報	1

◆早期注意情報（警報級の可能性）  
警報級の現象が5日先までに予想されているときには、その可能性を「早期注意情報」として【高】【中】の2段階で発表します。

▲東北地方の早期注意情報（警報級の可能性）  
2022年08月30日05時 A地方気象台発表

▲東北地方では、31日までの観測中に、大雨警報を発生する可能性が高い。今後の情報に留意してください。

沿岸北緯	30日		31日		1日	2日	3日
	夕方まで	朝一昼間	朝一昼間	朝一昼間			
六高	警報級の可能性	高	高	高	高	-	-
鹿角	警報級の可能性	高	高	高	高	-	-
鹿角	警報級の可能性	高	高	高	高	中	-

■ 高： 警報級の可能性が高い  
■ 中： 警報級の可能性がある

気象庁ホームページ表示イメージ

### ◆大雨特別警報

避難指示に相当する気象状況の次元をはるかに超える場合に発表します。すでに災害が発生している可能性が高いため、この情報が発表される前に、避難を完了している必要があります。

### ◆土砂災害警戒情報

命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となった場合に発表します。

### ◆キキクル（危険度分布）

大雨警報や洪水警報、土砂災害警戒情報等が発表されたら、地域の詳細な危険度の高まりをキキクル（危険度分布）で確認してください。土砂・洪水の「危険（紫）」は、警戒レベル4に相当します。

### ◆大雨警報、洪水警報等

大雨等によって災害が起こる危険性があるときに、予備知識のない方でも身近に迫る危険に気づくよう、聞きなれている市町村名を基本として発表します。

2022年08月30日05時 A地方気象台発表

▲大雨警報、洪水警報等

▲大雨等によって災害が起こる危険性があるときに、予備知識のない方でも身近に迫る危険に気づくよう、聞きなれている市町村名を基本として発表します。

▲警戒レベル4に相当する気象状況の次元をはるかに超える場合に発表します。すでに災害が発生している可能性が高いため、この情報が発表される前に、避難を完了している必要があります。

▲命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となった場合に発表します。

▲大雨警報や洪水警報、土砂災害警戒情報等が発表されたら、地域の詳細な危険度の高まりをキキクル（危険度分布）で確認してください。土砂・洪水の「危険（紫）」は、警戒レベル4に相当します。

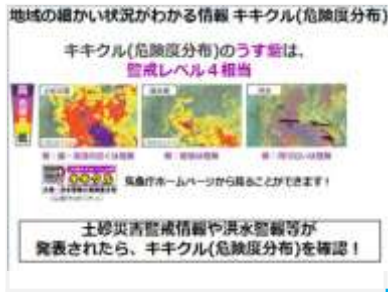
▲警報に切り替わる可能性が高い時は【高】と文章で予告

▲警報級、注意報級の現象が予想される時間帯を表示

気象庁ホームページ表示イメージ



## A 【レクチャー】地域の細かい状況がわかる情報 (キキクル(危険度分布))



### ✓ 留意点

どこの危険度が高まっているのか、地域の細かい状況は「キキクル、危険度分布」で確認できます。

### — 専門家

どこの危険度が高まっているのか、地域の細かい状況は「キキクル、危険度分布」で確認できます。

紫色は、危険度が高いことを示しています。

「土砂災害」「洪水」の紫は、「警戒レベル4、危険な場所から全員避難」に相当します。

土砂災害警戒情報や洪水警報等が発表されたら、気象庁のホームページでキキクルを確認してください。

### — 専門家

市区町村が発令する「避難情報」で確実に避難することが重要です。

ただ、外の状況はどんどん変わっていきますので、市区町村から「避難情報」が発令されていなくても、気象庁などが発表する防災気象情報を参考にして、自主的に早めに避難することも重要になってきます。



### 気象コラム



キキクル(危険度分布)は、警報が発表されたときや、強い雨が降ってきたときに、どこで土砂災害や新水害、洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる、命を守るための情報です。

←気象庁リーフレット  
「キキクル(大雨・洪水警報の危険度分布)」(子ども用)

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kikendo_child/index.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/kikendo_child/index.html)

## A [レクチャー] 自ら積極的に情報を手に入れる

### 留意点



### 専門家

みなさんが災害に遭わないようにするために、気象庁から発信された警報などは様々な手段で皆さんに伝えられます。テレビやラジオ、防災無線などで放送されるほか、気象会社や市町村の中にはメールで送ってくれるサービスをしているところもあります。また、気象庁ホームページにも様々な気象情報が載っています。

みなさんも積極的に情報を手に入れるようにしてください。



### 気象コラム

「逃げなきゃコール」は、離れた場所に暮らす高齢者等の家族の防災情報を、家族がスマートフォンアプリ等によりプッシュ型で入手し、直接家族に電話をかけて避難を呼びかける取組です。

事前に、スマートフォンアプリやサービスの地域登録機能を活用し、離れた場所に暮らす高齢者の家族など相手の地域を登録することで、登録した相手の地域に水害などの危険が迫った際、アプリやサービスを通じて防災情報を PUSH 型で受け取れるようになります。この情報をもとに、離れた場所に暮らす家族などの大切な人に直接電話等で避難を呼び掛けることで、避難を後押しします。

国土交通省「逃げなきゃコール」サイト  
<https://www.mlit.go.jp/river/risp/policy/33nigecall.html?id=01>

国土交通省報道発表資料 あなたの一声で大切な人の避難を後押し！  
 ～「逃げなきゃコール」がより多くのスマートフォン等で実施できるようになります～  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_001059.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_001059.html)



## A 【レクチャー】 災害への心構え

### 災害への心構え

災害は「まさか」ではなく  
「いつか」起きるものと認識せよ！

「自分は大丈夫」とは思わない！

「自らの身は自ら守る」「大切な  
人の命を守る」という意識を持つ。

### ✓ 留意点

### 専門家

災害を防ぐためには、みなさん一人一人が  
災害に対する心構えをしっかりと持つことが必要です。



1つ目は、「災害は“まさか”ではなく“いつか”起きるもの」と認識することです。  
災害が起きた後、被災者かたよく聞かれるのが、

「まさかこんなことになるとは思わなかった・・・」という言葉です。

「災害は、いつかは起きるもの」という前提で普段から準備しておくことが大切です。



2つ目は、「自分は大丈夫という考えは捨てる」ということです。

人は、目の前に危険が迫っていても、「たいしたことはない、大丈夫、大丈夫」と  
自分に都合よく考えてしまう傾向があります。

その結果、避難が遅れ、災害に遭ってしまうのです。



最後に、避難するかしないかは「あなた」の判断です。他人に委ねてはいけません。  
また、大切な人にも声をかけ、一緒に避難することも考えてみてください。

災害に遭わないため、

皆さんにはこの3つの心構えを是非持ってほしいと思います。



### 気象コラム

よく災害が発生したときに「こんな大雨は今まで経験がない。こんなことになるとは思わなかった。」というコメントをよく聞きます。数十年に一回程度しか起きないような災害は、多くの人が経験したことはありません。川はあふれ、山は崩れるものです。地域の過去の災害を調べたり、地形からどのような災害が発生する可能性があるのかを調べるなどして、いつかは起こりうる災害に事前に対処しておくことが重要です。

また、これまで災害の経験のないことなどにより、災害の危険が迫っても「危険はない、大丈夫だ」と思いがちです（「正常化の偏見」等という）。気象状況や地形などの情報を正しく認識して、行動することができるようになりましょう。

ただし、必要以上に災害を怖がる必要はありません。災害は、いざというときに正しい行動を取ることで防げるものです。自然は災害をもたらしますが、一方で、それ以上の恵みをもたらします。自然に感謝しつつ、災害の危険性が増したときに「避難する」ことで自然とつきあっていきましょう。

## A [レクチャー] 質問タイム

質問タイム



### ✓ 留意点

質問がでにくい場合には、ファシリテーターが促すような声掛けをします。後半のグループワークに関わる質問が出た場合は、その場では答えないようにしてください。

### ファシリテーター

ここで質問タイムです。

ここまで、災害の種類や防災気象情報、情報入手方法について学んできました。これまでのことに関して質問のある人は手を挙げてください。

はい、〇〇さん等

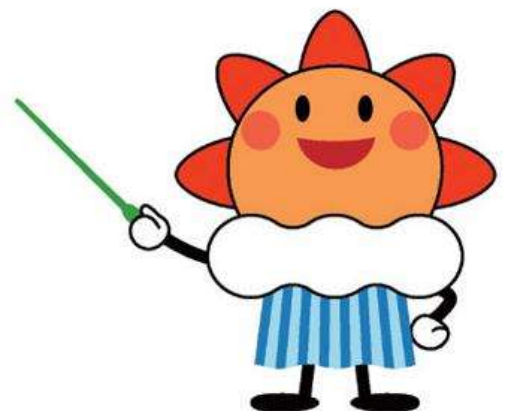
(適宜質問を復唱し、

質問内容が参加者全体で共有できるようになったか確認した上で回答する)

質問タイム終了後



休憩





経験したことのない 大雨 その時どうする？

# 4

## シナリオ

- シナリオ概要
- シナリオ概要（状況付与）
- オープニング
- 役割決め
- ルール説明① くじ引き
- ルール説明②
  - [場面1] 昼のローカルニュース（大雨の前日）
  - [場面1] 検討の時間
  - [場面2] 朝のローカルニュース（大雨の当日）
  - [場面2] 検討の時間
  - [場面3] 警戒レベル3及び警戒レベル4
  - [場面3] 検討の時間①
  - [場面3] 検討の時間②
  - [発表] 発表の準備
  - [発表] 発表・質疑・講評
  - [まとめ] 本日のねらい
  - [まとめ] おわりに
- 事務連絡

## シナリオ概要

○このワークショップのねらい

- ・警戒レベルと避難行動との関係を学ぶ
- ・防災気象情報を活用して早めの避難行動を学ぶ

○留意事項

市区町村が発令する「避難情報」で確実に避難することが重要です。

しかし、外の状況は刻々と変わってゆきますので、「避難情報」が発令されていなくても、気象台等が発表する防災気象情報を参考に、自ら判断で、早めに命を守る行動をとることも重要になってきます。

※本ワークショップでは、自らの判断で行動することを学べるよう、市町村からの「避難情報」は付与されない設定としています。

月日	時	雨の降り方	防災気象情報 (警戒レベル相当情報)	警戒レベル	ワークショップ (検討内容)	備考 (想定発生災害)	
10月 4日 (金)	06時		05:00 早期注意情報	警戒レベル1	【場面①】 昼のニュースを見て、明日 5日からの大雨に備えて、 今できる対応や準備を検討		
	12時		11:00 早期注意情報				
	18時		17:00 早期注意情報				
10月 5日 (土)	00時		05:00 大雨・洪水注意報	警戒レベル2	【場面②】 朝のニュースや注意報を見 て、これからの大雨に備え て、今できる対応や準備を 検討	水路が溢れる	
	06時	弱い雨 時折 強い雨					
	12時	強い雨					13:30 大雨・洪水警報
	18時	激しい雨					18:30 土砂災害警戒情報
10月 6日 (日)	00時	断続的に 猛烈な雨	04:30 大雨特別警報	警戒レベル4	※警戒レベル5は、命にか かわる災害が発生してい る可能性が極めて高い！	同時多発的土砂崩れ	
	06時	強い雨		警戒レベル5			
	12時						比較的大きな川の 水が堤防を越える



# シナリオ概要（状況付与）

グループワークの実施にあたり、参加者に、段階的に情報が入るよう、設定や条件を1つずつ「状況付与」するようにしています。

場面ごと、該当資料を配布する方法もありますが、封筒に資料を入れて配布しておき、逐次、開封を指示するなど、やりやすい方法を採用してください。

## 場面①



### 4日（金）昼、ローカルニュース

前線の活動が活発になるため、ムム県では、今夜から雨が降り始め、明日5日（土）昼頃から、明後日6日（日）明け方にかけて、非常に激しい雨が降る見込みです。

大向となるおそれがあるため、低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、冠水などに警戒してください。

気象台からは、大雨警戒が発表される可能性が高いとして、すでに「早期注意情報」も発表されています。

**警戒レベル1：**  
災害への心構えを定める

（日の出：5時30分頃、日の入：17時頃）

### (参考) 予報用語

気象庁では、天気予報情報として一定の時間間隔で雨の降りかたを予測しています。基本的には、マシマシの文字が意味でも、同じ意味が繰り返されています。

●一日の時間別降水

時間	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24
降水	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

●雨の降りかたの降り方

時間	00-03	03-06	06-09	09-12	12-15	15-18	18-21	21-24
降水	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 場面②

### 5日（土）朝5時、大雨・洪水注意報

【気象情報、深層観測】

観測所	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
降水量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【早期注意情報（早期注意情報）】

観測所	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
早期注意情報	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

### 5日（土）朝、ローカルニュース

△△県では、昨夜から強い雨が降り、今日5日昼過ぎからは、非常に激しい雨が降り、夜は、一帯降って、猛烈な雨が降ると予想されています。

過去に大きな被害をもたらした大雨に匹敵する状況になるおそれがあるとのことです。

低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、冠水などに厳重に警戒してください。

気象台が発表する警戒、注意報、気象情報に十分留意してください。

**5日（土）5時00分 大雨注意報 洪水注意報**  
警戒レベル2：自らの避難行動を確認

## 場面③-1

### 5日（土）13時30分、大雨警戒、洪水警戒

【気象情報、深層観測】

観測所	13時30分	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
降水量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【早期注意情報（早期注意情報）】

観測所	13時30分	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時
早期注意情報	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5日（土）19時30分 土砂災害警戒情報

### 5日（土）14時00分

### 5日（土）19時00分

## 場面③-2





## 【準備】 オープニング



### ✓ 留意点

封筒に資料を入れておくことで、段階的に情報が入ってくるように制御し、設定や条件を1つずつ理解していくことを促しています。

### ファシリテーター

机の上の封筒は指示があるまで開けないでください。

それではみなさん揃いましたので、いよいよグループワークをはじめます。

まずはじめに、ワーク中のみなさんの役割についてです。



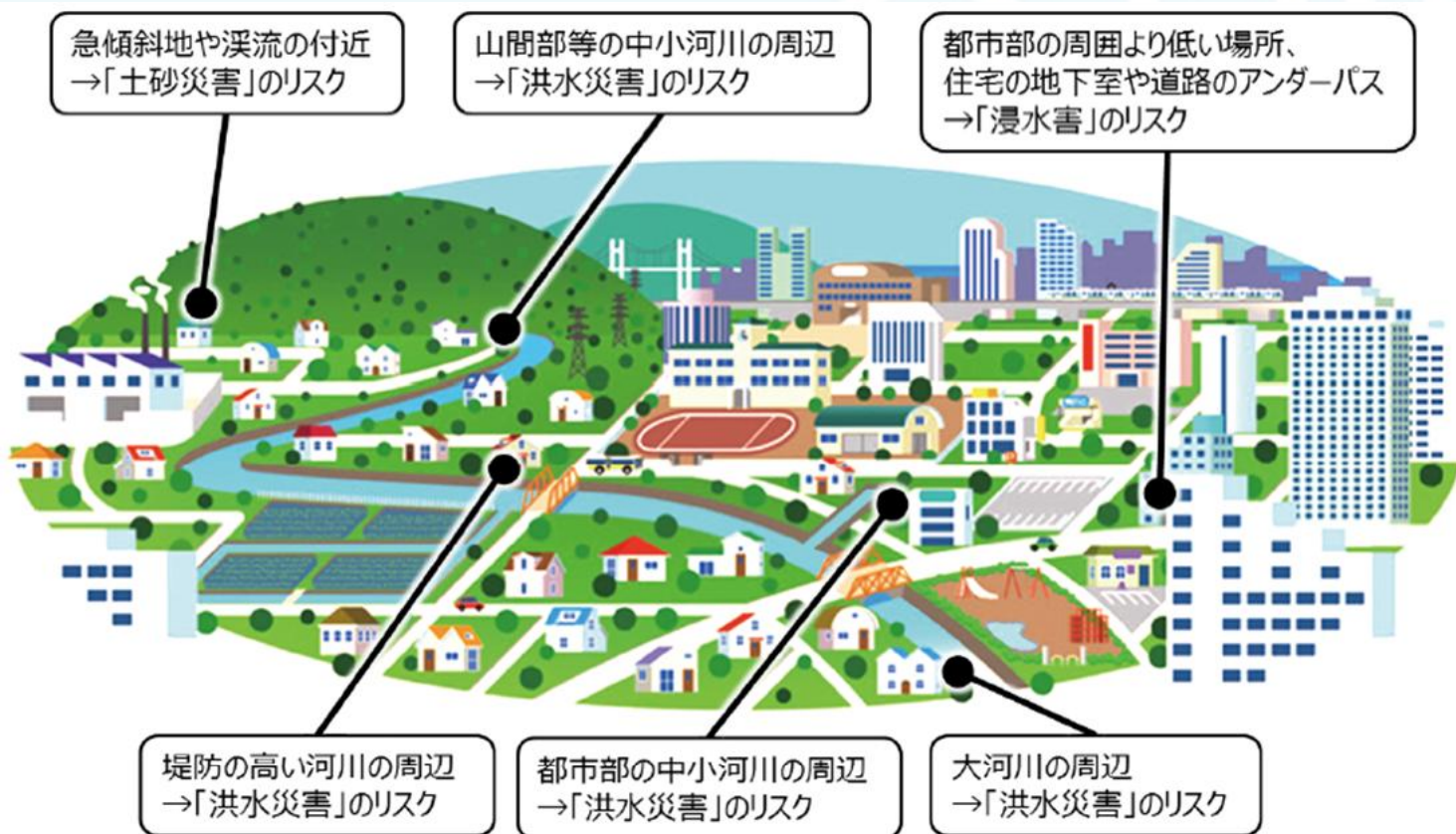
### 気象コラム

険しい山や急流が多い我が国では、大雨によって、川の氾濫や土砂災害が発生しやすく、人々の生命が脅かされるような自然災害が度々発生しています。

それぞれの場所に応じて必要な防災気象情報を活用することが重要です。

大雨により視界が悪く、また、浸水した道路では側溝の境界が見えにくくなります。

川や田んぼを見に行行って流される事故も発生しています。





## 【準備】役割決め



### ✓ 留意点

グループの中で自己紹介をしてもらいます。名札に書かれたニックネーム、今日参加した理由などを簡単に共有するといいでしょう。その後、役割決めを行います。決め方は基本的にはグループに任せます。ファシリテーターは役割決めが円滑にできていないグループがないか見守り、必要があれば手助けをしましょう。

### ファシリテーター

これからグループに分かれて、まず自己紹介をしてみましょう。それから、それぞれで役割決めをしてもらいます。

役割は、リーダー、記録、発表、くじの4種類あります。リーダーはみんなの意見がなるべく出るように、そしてまとめるようにしてください。記録係はそこ置いてある紙に、みんなの考えや意見を記録してください。発表係は最後のまとめの時に班の発表していただきますので、その準備をよろしくお願いします。

くじ引き係はこの後行われるくじをみんなを代表して引きにきてください。使うくじは3種類あります。

(くじ引き係は1人でしても、分担しても構いません。)

### 自己紹介、役割決め終了後



### 気象コラム

くじの内容についての意図は

場所…災害の発生しやすい場所、川のそばと山の近くを想定しています。

想定される災害の違いでどのような判断や行動を考えてほしいと思います。

住居…木造の建物と鉄筋の建物（1階と3階）を想定しました。鉄筋の建物の場合は、場合によっては垂直避難や避難を見送るという選択肢も出来る想定になっています。

ただし、山の近くの場合は、鉄筋といえども被害が免れない可能性もあります。

家族…要配慮者がいるかいないか、車があるか無いかの少し複雑な設定としております。

要配慮者がいる場合は、避難に時間がかかることから早めの避難を検討しなければなりません。

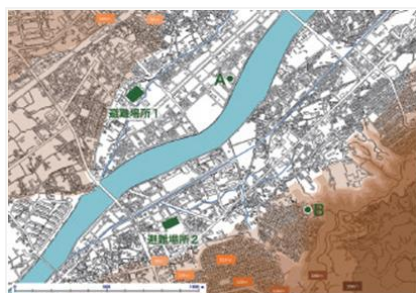
一方で、早めの避難は避難時間が長くなり、要配慮者に対してストレスを与える可能性があります。

車があるか無いかについては、避難が容易か容易でないかの違いが想定されます。

ただし、渋滞や駐車場の問題も想定されます。

また、このような設定を与えられたものではなく、自ら引き当てることによる効果も狙っています。

## 【準備】ルール説明① くじ引き



### ✓ 留意点

くじ引きのところで時間がかかり過ぎないように、ファシリテーターやスタッフは声をかけて促しましょう。

### ファシリテーター

では、ルールを説明します。

皆さんは「いろは市」に住んでいます。こちらはその地図です。

同じ班の皆さんは、A又はBの家の一人名します。

これから、どの班がどちらの場所に住んでいるか決めますので、

くじ（場所）係の人は前に来てくじを引いてください。

— はい、住んでいる場所が決まりました。

次は、どんな家に住んでいるか決めます。

くじ（住居）係の人は前に来てくじを引いてください。

— はい、住んでいる家が決まりました。

次は、家族構成を決めます。

くじ（家族）係の人は前に来てくじを引いてください。

— はい、家族構成が決まりました。

さて、大雨災害から身を守るために、普段からしておくことは何でしたか？

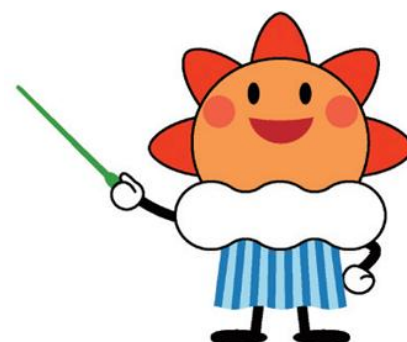
### 参加者

・・・（洪水ハザードマップを確認しておく等）

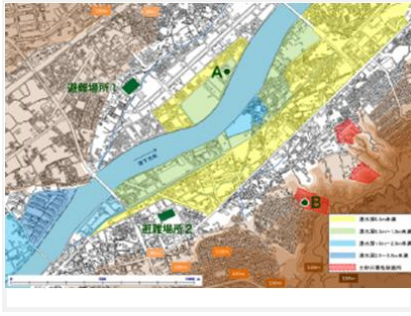
### ファシリテーター

そうですね。もう皆さんは洪水ハザードマップと土砂災害危険箇所図を

事前に調べたこととして、地図に表示します。



## 【準備】ルール説明②



### ✓ 留意点

地図は、最低限の情報のみが載っているものをこのワークショップ用に用意しています。それぞれの実施地域のハザードマップを利用する、というアレンジも可能です。

## ファシリテーター

「場面①」と書かれた封筒を、上向きにして中身をそのまま出してください。その中の一番上に地図が入っていますので、まずはそちらを見てください。黄色や水色は、川の水があふれて浸水する領域及び想定される浸水の深さです。赤色は、土砂崩れにより家屋等に被害が及ぶ『土砂災害警戒区域等』です。

それから、皆さんは防災気象情報を携帯電話でメールで受信する登録をしていることとします。

ここまでよろしいですか？何か質問はありますか？（質問対応）

さて、この後、皆さんの住んでいるこの町に大雨が降ってきます。時間の流れに沿って、防災気象情報も発表されます。災害に遭わないためにどのタイミングでどのような行動をするのか、その理由も皆で話し合ってください。

では、はじめましょう。



## 気象コラム

住んでいる地域によって、まず、どんな災害が想定されるのかを考える必要があります。住居Aは川のそばにあり当然、洪水や浸水に注目しなければなりません。洪水ハザードマップでも浸水想定区域に入っています。住居Bは山の下に位置していますし、土砂災害危険箇所に指定されています。どのような状況に避難しなければならないのか、どんな情報に注目しなければならないでしょうか。これまでのレクチャーの中にヒントが隠れています。

次に、考えることは被害が想定される場所にいますので、いざとなったときに避難する場所を考えなければなりません。また、避難経路にも気をつけましょう。

【自宅を離れて避難する（「立退き避難」といいます）先の例】

### 1) 指定緊急避難場所

切迫した災害の危険から身の安全を確保するために避難する場所として、あらかじめ市町村が指定した施設・場所。小中学校、公民館、高台・津波避難ビル・津波避難タワー等

### 2) 安全な親戚・知人宅、ホテル・旅館等の自主的な避難先


これらが存する場所や避難経路が安全であることをハザードマップ等であらかじめ確認するとともに、遠方にある場合は早めに避難する。

本ワークショップでは、避難場所1は浸水想定区域からやや離れたところ、避難場所2は浸水想定区域のやや近いところにあります。避難場所には両方とも水路、あるいは小河川が近くにあり、避難経路にも注意が必要なところが必要です。大きな川を渡って反対側に避難する選択肢もあるかもしれません。

# 【場面1】 昼のローカルニュース（大雨の前日）

今日は  
20xx年10月4日（金）

昼のローカルニュース



警戒レベル1：  
災害への心構えを高める

台風の影響に伴い、△△県では、今夜から雨が降り始め、明日5日（土）昼頃から、明後日6日（日）明け方にかけて、非常に激しい雨が降る見込みです。大雨となるおそれがあります。低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、氾濫などに警戒してください。気象台が発表する警報、注意報、気象情報に十分留意してください。

## 留意点

最初の状況設定を飲み込めるかが、このワークを進めていく上で肝心です。聞いていない人がいないか、理解できていない人がいないか、ファシリテーターやスタッフは参加者の様子に目を配りましょう。

## ファシリテーター

今日は20xx年10月4日（金）です。

昼のテレビで、お天気キャスターが「明日は大雨に警戒して下さい。」と伝えています。

大雨に備えてどのような準備をするのか、このあと、皆さんに考えてもらいますのでこれから伝える情報をよくきいてください。

お天気キャスターが伝えてたことは、次のようなことでした。

### ○読み上げ原稿

前線の活動が活発になるため、△△県では、今夜から雨が降り始め、明日5日（土）昼頃から、明後日6日（日）明け方にかけて、非常に激しい雨が降る見込みです。大雨となるおそれがあるため、低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、氾濫などに警戒してください。

気象台からは、大雨警報が発表される可能性が高いとしてすでに、早期注意情報も発表されています。

## 気象コラム

### 【早期注意情報】

警報級の現象が5日先までに予想されるときには、その可能性を「早期注意情報」として[高][中]の2段階で発表します。

A県沿岸北部地方の早期注意情報（警報級の可能性）		202X年08月30日05時 A地方気象台 発表						
沿岸北部地方では、31日までの期間内に、大雨警報を発表する可能性が高い。今後の情報に留意してください。		30日		31日		1日	2日	3日
		夕方まで	夜～明け方	朝～夜遅く				
		6-12	12-18	18-24	0-6	6-24		
大雨	警報級の可能性	[高]	[高]	-	-	-	-	-
暴風	警報級の可能性	[高]	[高]	-	-	-	-	-
波浪	警報級の可能性	[高]	[高]	[中]				

■ [高] □ [中]

気象庁ホームページ表示イメージ



## 【場面1】 検討の時間



10月4日（金） 昼～  
10月5日（土） 明け方

大雨に備えて  
どのような準備をするか  
皆で話し合ってください

（日の出：5時30分頃、日の入：17時頃）



### 留意点

この時点では、参加者には、来る大雨に対して「準備すべきこと」を考えてもらいます。

ファシリテーター・専門家・スタッフは様子を見守ります。

課題が分かっていない班があれば、説明を補足し議論が円滑にできるよう手伝います。

ファシリテーターは、残り時間を参加者に伝えてください。

### －専門家

4日（金）の夜から、外は弱い雨が降っています。

そして、日付が変わって5日（土）になりました。

まだ、日の出前なので、外は、やっと明るくなってきた、という状況です。

（日の出：5時30分頃）

### －ファシリテーター

「場面①」の封筒には、今、皆さんに説明した情報が入っていますので、あらためて、その内容を確認し、

（天気予報で、大雨のおそれを知った）4日（金）昼から翌日の5日（土）明け方までの間で、どのような準備をするか話し合ってみてください。

（作業方法は、状況に応じて、適宜、説明）

- ・話し合った結果は、封筒の中のワークシートに書き出して下さい。
- ・後で発表するときに使いますので、マジックで分かりやすく大きく書いてください。
- ・話し合っている途中では、メモ用紙として用意してある白紙やポストイットがありますので自由に使ってください。

この時計の＊時＊分まで8分間で終わらせるようお願いします。

### －ファシリテーター

はい、時間になりました。終わっていないところありますか？  
頑張ってください。

はい、では次に進みます。

## 気象コラム

【警戒レベル1】居住者等は、防災気象情報等の最新情報に注意する等、災害への心構えを高める必要がある。自主的な避難先（親戚・知人宅やホテル・旅館等）の調整や、屋内安全確保をする場合には備蓄の補充等、時間を要する準備については居住者等の判断で自主的に進めておくことが望ましい。

〔内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.1警戒レベル1早期注意情報(発表者：気象庁)」より〕

【警戒レベル1及び2に含まれる気象注意報等】警戒レベル1及び2は市町村長が発令する避難情報ではなく、気象庁が発表する気象注意報等である。警戒レベルが5段階であるのは、災害の切迫度の高まりに応じて居住者等がとるべき行動を5段階に分類したためであり、その行動を促す情報について、警戒レベル1及び2については該当する避難情報がないため、テレビの天気予報等をとおして居住者等に提供される情報である気象注意報等を警戒レベル1及び2としたものである。

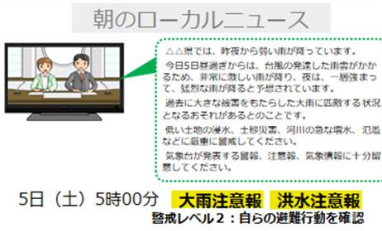
〔内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「関連情報⑩」より〕



# B 【場面2】朝のローカルニュース（大雨の当日）

20xx年10月5日（土）

## ✓ 留意点



この時点では、参加者には来る大雨に対して「準備すべきこと」を考えてもらいます。  
 ファシリテーター・専門家・スタッフは様子を見守ります。  
 課題が分かっていない班があれば、説明を補足し議論が円滑にできるよう手伝います。  
 ファシリテーターは、残り時間を参加者に伝えてください。

## 専門家



朝5時に気象台から、「大雨注意報」と「洪水注意報」が発表されました。  
 『警戒レベル2』自らの避難行動を確認するレベルです。  
 皆さんはスマートフォンや携帯電話にメールで配信されています。

## ファシリテーター

テレビでは、ニュースや天気予報で、お天気キャスターが警戒を呼びかけています。  
 お天気キャスターが伝えてたことは、次のようなことでした。

### ○読み上げ原稿

△△県では、昨夜から弱い雨が降っています。  
 今日5日昼過ぎからは、非常に激しい雨が降り、  
 夜は、一層強まって、猛烈な雨が降ると予想されています。  
 過去に大きな被害をもたらした大雨に匹敵する状況になるおそれがあるとのことです。  
 低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、氾濫などに厳重に警戒してください。  
 気象台が発表する警報、注意報、気象情報に十分留意してください。

## 気象コラム

### 【大雨警報、洪水警報等】

大雨等によって災害が起こる危険性があるときに、予備知識のない方でも身近に迫る危険に気づくよう、聞きなれている市町村名を基本として発表します。

### 【土砂災害警戒情報】

命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となった場合に発表します。

A県の警報・注意報（注意警戒事項）	
202X年08月30日05時19分 A地方気象台 発表	
注意警戒事項	沿岸北部、沿岸南部では、30日朝から31日明け方まで土砂災害に、30日昼前から30日夜のはじめ頃まで暴風に、31日明け方まで高波に警戒してください。
B町の警報・注意報（発表状況）	
202X年08月30日05時19分 発表	
B町 警報・注意報・警報の切り替え	
警報・注意報(発表)	大雨警報（土砂災害） 暴風警報
警報・注意報(継続)	波浪警報 雷注意報 洪水注意報 高潮注意報 濃霧注意報
警報の切り替え	30日昼過ぎまでに洪水警報に切り替える可能性が高い
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大雨特別警報</li> <li>■ 特別警報(大雨以外)・高潮警報、土砂災害警戒情報</li> <li>■ 特別警報(大雨以外)・高潮警報に切り替える可能性が高い</li> <li>■ 警報(高潮以外)・高潮注意報(1)</li> <li>■ 警報(高潮以外)に切り替える可能性が高い</li> <li>■ 注意報(高潮以外)・高潮注意報(2)</li> <li>■ 解除</li> <li>■ 大雨特別警報に切り替える可能性が高い</li> <li>■ 特別警報(大雨以外)・高潮警報に切り替える可能性が高い</li> <li>■ 警報(高潮以外)に切り替える可能性が高い</li> <li>■ 高潮警報に切り替える可能性が高い</li> <li>*2 上記以外の高潮注意報</li> </ul>	
B町の警報・注意報（今後の推移）	
B町	30日 3-6 6-9 9-12 12-15 15-18 18-21 21-24 31日 0-3 3-6
大雨	浸水害 16 30 40 50 80 80 浸水害
	土砂災害
洪水	
暴風	陸上 3 10 15 20 25 20 13 10 10
	海上 10 12 20 25 35 30 15 10 10
波浪	6.0 6.0 8.0 8.0 10.0 10.0 10.0 8.0 6.0
高潮	0.4 0.2 0.1 0.0 0.0 0.0 0.7 0.7

警報に切り替わる可能性が高い時は「**■**」と文章で予告

警報級、注意報級の現象が予想される時間帯を表示

気象庁ホームページ表示イメージ

## B [場面2] 検討の時間



10月5日(土) 明け方～  
10月5日(土) 昼

大雨に備えて  
どのような対応をするか  
皆で話し合ってください

(日の出：5時30分頃、日の入：17時頃)



### 留意点

朝のニュースや注意報を見て、これからの大雨に備えて、今できる対応や準備を検討してもらいます。

警戒レベル2 まもなく 警戒レベル3になろうとしている状況です。

### ファシリテーター

大雨当日です。

「場面②」の封筒には、今、皆さんに説明した情報が入っていますので、あらためて、その内容を確認し、

5日(土)明け方から昼前、どのような対応をするか話し合ってみてください。

(作業方法は、状況に応じて、適宜、説明)

- ・話し合った結果は、封筒の中のワークシートに書き出して下さい。
- ・後で発表するときに使いますので、マジックで分かりやすく大きく書いてください。
- ・話し合っている途中では、メモ用紙として用意してある白紙やポストイットがありますので自由に使ってください。

この時計の*時*分まで8分間で終わらせるようお願いいたします。

### ファシリテーター

はい、時間になりました。終わっていないところありますか？  
頑張ってください。

はい、では次に進みます。

## 気象コラム

### 【警戒レベル2】

居住者等は、ハザードマップ等により自宅・施設等の災害リスク、指定緊急避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認・注意するなど、避難に備え自らの避難行動を確認する。

なお、避難するに当たって持参する荷物をまとめる等の避難準備については平時に済ませておくことが望ましいが、まだ行っていない場合は、自らが避難するタイミングである警戒レベル3 高齢者等避難や警戒レベル4 避難指示が発令される前までに行う必要がある。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.2警戒レベル2 大雨・洪水・高潮注意報(発表者：気象庁)」より]

## 【場面3】警戒レベル3及び警戒レベル4

20xx年10月5日（土）

5日（土）13時30分 **大雨警報**  
**洪水警報**  
警戒レベル3 高齢者等避難 相当  
外は猛烈な雨  
 5日（土）18時30分 **土砂災害警戒情報**  
警戒レベル4 避難指示 相当  
 （日の出：5時30分頃、日の入：17時頃）

### ✓ 留意点

市区町村の発令する避難情報で確実に避難することが重要です。ただ、外の状況は刻々と変わってゆきますので、气象台が発表する防災気象情報を参考に、自主的に、早めの避難行動も重要になってきます。大雨の中、特に、夜間の移動は危険を伴う場合があります。その点も意識することが重要になってきます。

### — 専門家



5日（土）13時30分に气象台は、

大雨警報と洪水警報を発表しました。

『警戒レベル3 高齢者等避難』に相当します。

皆さんはスマートフォンや携帯電話にメールで配信された警報を確認しました。

### — 専門家

外を見ると猛烈な雨となっています。



18時30分には、「土砂災害警戒情報」が発表されました。

『警戒レベル4 避難指示』に相当します。

皆さんはスマートフォンや携帯電話にメールで配信された土砂災害警戒情報を確認しました。

もう、外は真っ暗になっています。（日の入りは17時頃）



## 気象コラム

### 【警戒レベル3】

市町村長から警戒レベル3 高齢者等避難が発令された際には、高齢者等は危険な場所から避難する必要がある。高齢者等の「等」には、障害のある人等の避難に時間を要する人や避難支援者等が含まれることに留意する。具体的にとるべき避難行動は、「立退き避難」を基本とし、洪水等及び高潮に対しては、ハザードマップ等により屋内で身の安全を確保できるか等を確認したうえで自らの判断で「屋内安全確保」することも可能である。

また、本情報は高齢者等のためだけの情報ではない。高齢者等以外の人にも必要に応じ、出勤等の外出を控えるなど普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難するタイミングである。例えば、地域の状況に応じ、早めの避難が望ましい場所の居住者等は、このタイミングで自主的に避難することが望ましい。以下、早めの避難が望ましい場所の例である。

- ・急激な水位上昇のおそれがある中小河川沿い
- ・浸水しやすい局所的に低い土地
- ・避難経路が局所的な浸水や土砂災害等により通行止めになり孤立するおそれがある場所
- ・突発性が高く予測が困難な土砂災害の危険性がある区域 等

※避難先が遠方にある場合は、移動に必要な時間だけ早期に避難すべきである

なお、緊急時に市町村の職員が指定緊急避難場所を速やかに開放できるとは限らないため、自主防災組織をはじめとする居住者等が開放できるようにしておくなど、工夫も必要である。

以上を基本とするが、施設管理者等については、「1.3 施設管理者等の責務等」の記載内容のとおり、施設の実情に合わせた避難支援を行うこと。

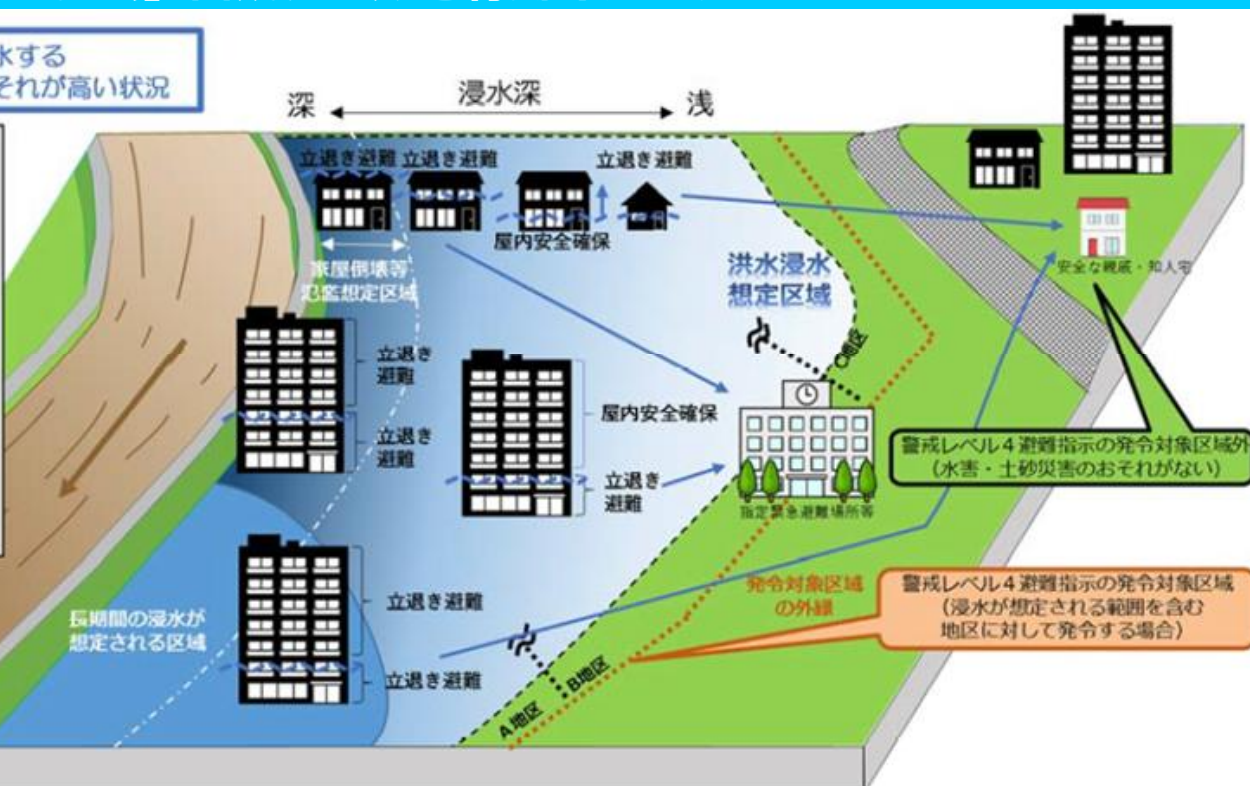
〔内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.3警戒レベル3 高齢者等避難(発令者：市町村長)」より〕



# 【気象コラム】警戒レベルと行動イメージ

この範囲・深さで浸水する  
おそれがある又はおそれが高い状況

- <凡例>
- 戸建て平屋
  - 戸建て2階建て
  - 集合住宅 3階建て以上
  - 親戚・知人宅
  - 指定緊急避難場所等



警戒レベル4 避難指示の発令対象区域外  
(水害・土砂災害のおそれがない)

警戒レベル4 避難指示の発令対象区域  
(浸水が想定される範囲を含む  
地区に対して発令する場合)

<※以下、1つでも該当すれば立退く必要があるが、いずれにも該当しない場合は屋内安全確保も可能>

①全居室が浸水する



②家屋倒壊等氾濫想定区域に入っている



堤防高の大きな堤防整備済み区間における 堤防決壊や種流による氾濫は流れの勢いが非常に強いため、木造家屋は倒壊するおそれがある

③長期間^{※1}の浸水が許容できない^{※2}



※1 想定される浸水継続時間が公表されている場合は、その時間

※2 考えられる支障の例  
・水、食糧、薬等の確保困難  
・電気、ガス、水道、トイレ等の確保困難

## 警戒レベル3 高齢者等避難や警戒レベル4 避難指示の発令時の行動イメージ

[内閣府「避難に関するガイドライン」の「3.2 避難情報等と居住者等がとるべき行動(警戒レベルの詳細)」より]

既にこの範囲・深さで浸水しているか、浸水する直前の状況

- <凡例>
- 戸建て平屋
  - 戸建て2階建て
  - 集合住宅 3階建て以上
  - 親戚・知人宅
  - 指定緊急避難場所等



警戒レベル5 緊急安全確保の発令対象区域外  
(水害・土砂災害のおそれがない)

警戒レベル5 緊急安全確保の発令対象区域  
(浸水が想定される範囲を含む  
地区に対して発令する場合)

安全に移動できないおそれ  
(屋内の場合、移動したとしても  
身の安全を確保できるとは限らない)

## 警戒レベル5 緊急安全確保の発令時の行動イメージ

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2 避難情報等と居住者等がとるべき行動(警戒レベルの詳細)」より]



## 【場面3】 検討の時間①



### ✓ 留意点

重要なポイントは、警戒レベル5となる前までに、命を守る行動を完了させておくことです。

警戒レベル3、警戒レベル4の段階で、いかに、大雨に備えた命を守る対応をとるかを検討してもらいます。

### ファシリテーター

いよいよ、大雨となった状況で、皆さんの行動を考えてもらいます。

「場面③-1」の封筒には、今、皆さんに説明した情報が入っていますので、あらためて、その内容を確認し、

5日(土) 昼から、翌日6日明け方までに、どのような対応をするか命を守るための行動について、話し合ってみてください。

(作業方法は、状況に応じて、適宜、説明)

- ・話し合った結果は、封筒の中のワークシートに書き出して下さい。
- ・後で発表するときに使いますので、マジックで分かりやすく大きく書いてください。
- ・話し合っている途中では、メモ用紙として用意してある白紙やポストイットがありますので自由に使ってください。

この時計の*時*分まで8分間で終わらせるようお願いします。

### ファシリテーター

はい、時間になりました。終わっていないところありますか？  
頑張ってください。

## 気象コラム

### 【警戒レベル4】

市町村長から警戒レベル4 避難指示が発令された際には、居住者等は危険な場所から全員避難する必要がある。

具体的にとるべき避難行動は、「立退き避難」を基本とし、洪水等及び高潮に対しては、ハザードマップ等により屋内で身の安全を確保できるか等を確認したうえで自らの判断で「屋内安全確保」することも可能である。

〔内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.4警戒レベル4 避難指示（発令者：市町村長）」より〕

## 【場面3】 検討の時間②

	10月5日(土) 12:00~ 10月6日(日) 12:00
5日(土) 13時30分	<b>大雨警報</b> 洪水警報 警戒レベル3 高齢者等避難 相当
5日(土) 18時30分	<b>土砂災害警戒情報</b> 警戒レベル4 避難指示 相当
6日(日) 4時10分	<b>大雨特別警報</b> 警戒レベル5 緊急安全確保 相当

### ✓ 留意点

本ワークショップでは、「警戒レベル5」に至る前の、「警戒レベル3 高齢者等避難」や「警戒レベル4 避難指示」のタイミングで避難することが極めて重要だということを、参加者に認識いただくことが最大の目的です。

### — 専門家

あの…皆さんに大事なことを伝えなければなりません。

### — ファシリテーター

え！〇〇さん（専門家）、何ですか？

### — 専門家



6日(日)の4時10分に、大雨特別警報が発表されています。

『警戒レベル5 緊急安全確保』に相当します。

### — ファシリテーター

警戒レベル5 とはどのような状況を示すレベルか、思い出してください。

先ほど、5日昼から6日明け方までの行動を考えてもらいましたが「大雨特別警報」の発表をきいて、対応を変える必要があるか、ないか、それはどうしてかを話し合ってください。

この時計*時*分まで、7分間で書き出すところまでやってください。

### — ファシリテーター

はい、時間になりました。終わっていないところありますか？  
頑張ってください。

## 気象コラム

### 【警戒レベル5】

市町村長から警戒レベル5 緊急安全確保が発令された際には、居住者等は命の危険があることから直ちに安全確保する必要がある。

具体的にとるべき避難行動は、「緊急安全確保」である。

ただし、本行動は、災害が発生・切迫した段階での行動であり、本来は「立退き避難」をすべきであったが避難し遅れた居住者等がとる次善の行動であるため、本行動を安全にとることができるとは限らず、また本行動をとったとしても身の安全を確保できるとは限らない。さらに、本行動を促す情報が市町村長から発令されるとは限らない。このため、このような状況に至る前の警戒レベル3 高齢者等避難や警戒レベル4 避難指示が発令されたタイミングで避難することが極めて重要である。

[内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「3.2.5警戒レベル5 緊急安全確保（発令者：市町村長）」より]

## C 【発表】 発表の準備



あとから入ってきた情報  
発生していた災害

5日（土）13時30分	水路があふれる
5日（土）20時00分	がけ崩れが発生する
6日（日）明け方	各地で土砂崩れ
6日（日）11時00分	川があふれる



### 留意点

水路・下水道等の氾濫が既に発生している状況においては、氾濫水の勢いで流されたり、足元が濁水で見えにくくなり道路の側溝や蓋が外れたマンホール等があることに気づかずに落下したりするなど、指定緊急避難場所等への立退き避難がかえって危険となる場合があります。夜間や大雨の中を避難する時、どのような困難な状況となるかもイメージしながら検討してみてください。

### 専門家

あとから入った情報ですが、災害が発生しています。  
「場面③-2」と書かれている封筒を開けて新しい地図を出して下さい。



5日（土）、大雨警報が発表された13時30分には、水路が溢れ、一部で道路が川のようになっていたとのことです。

5日（土）の20時には、がけ崩れが発生しました。

6日（日）の明け方に、各地で土砂崩れが発生し、崩れた土砂で、家が倒壊したとの情報です。

そして、6日（日）11時には、大きな川の水が堤防を越え、川沿いの広い範囲で浸水したとのことです。

### ファシリテーター

各地で災害が発生している状況のようです。



皆さんは、災害に巻き込まれる前に、命を守る行動がとれたでしょうか。

では、皆さんから発表してもらいます。

何をどのように発表するか、この時計*時*分まで、7分間で、発表する準備をしてください。

（作業方法は、状況に応じて、適宜、説明）

まとめた紙と地図を模造紙に張り付けて、他の班に分かるように発表していただきます。

できた模造紙は発表・まとめの時間の前に壁に貼ります。

スタッフが貼る作業を手伝いますので、時間通り進むよう協力してください。

発表時間は各班2分です。その点も意識してください。

発表準備終了後



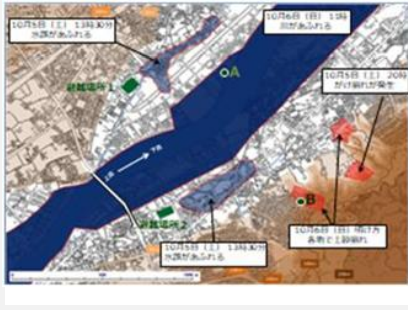
### 気象コラム

【雨がやんでも安全とは限らない】

- ・河川によっては、台風が過ぎ去った後や自分がいる場所での降雨が止んだ後であっても、水位が上昇し氾濫することがあるため、自宅・施設等への帰宅判断は、市町村の避難情報の解除を踏まえ慎重に行う。
- ・土砂災害は、降雨が止んだ後しばらくしてから発生する可能性があるため、自宅・施設等への帰宅判断は、市町村の避難情報の解除を踏まえ行う。

【内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「2.4災害種別毎の避難行動の特徴」より】

## C 【発表】 発表・質疑・講評



### ✓ 留意点

発表順はくじで引いた条件が近い班を、関連づけながら発表させます。講評時には、どの班に対してもできるだけ良いところを見つけ指摘します。良くなかったところについては、その班を批判するのではなく、参加者全員にとっての検討課題として位置づけていきます。

### ファシリテーター

では○班の方、発表をお願いします。2分で発表してください。

(発表)

…ありがとうございました。他の班の方から質問はありませんか？特に、条件が同じだったり違ったりした部分について留意しながらコメントしてみてください。

(質問 2分)

### 専門家

(発表された内容について、  
気象コラム【講評のポイント】を参考に30秒程度で講評を行う)

### ファシリテーター

次に○班の方、発表をお願いします。

(班の数だけ繰り返し)

みなさん、お疲れ様でした。

### 専門家

(発表全体を通して、  
気象コラム【講評のポイント】を参考に2分間程度で講評を行う)

最後に、今日の活動のふりかえりも兼ねて、  
全体を通してのまとめをお話ししていきたいと思います。



## 気象コラム

このワークで、考えてもらったいろいろな準備や避難行動については、正解は一つではありません。家族の状況や家のある場所によっても対応は異なりますし、もちろん気象状況によっても判断や、行動を変えなければなりません。

災害に遭わないためには、まず知ること。

- ・地域の災害リスクを知る (ハザードマップや過去の災害の記録)
- ・災害から身を守るための知識を知る

次に、

- ・警報や注意報などの気象状況を入手する (インターネットなど)

最後に、

- ・危ないと思ったら準備や行動 (避難)

これらを、状況に応じて自ら判断や行動を取れるようになってほしいと思います。

また、本日知った知識を家族や友達にひろめるとともに、いざというときに率先して行動出来るようになってほしいと思います。



## 【コラム】居住者等が持つべき避難に対する基本姿勢

### 気象コラム

#### 【講評のポイント】

#### ○居住者等が持つべき避難に対する基本姿勢

居住者等は、既存の防災施設、行政主導のソフト対策には限界があることをしっかりと認識するとともに、自然災害に対して行政に依存し過ぎることなく、「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、自らの判断で主体的な避難行動をとることが必要である。

主体的な避難行動をとるにあたり居住者等が特に留意すべき事項は以下のとおりである。

- ・ 平時より、居住地や勤務・通学先、要配慮者利用施設等、日常生活において自らが居ることが多い場所（以下「自宅・施設等」という。）の災害リスクを把握するとともに、適切な避難行動、避難のタイミングは各居住者等で異なることを踏まえ、災害種別毎に自宅・施設等が、立退き避難が必要な場所なのか、上階への移動等で命に危険が及ぶ可能性がなくなるのか等についてあらかじめ確認・認識し、災害時にとるべき行動を自ら判断すべきである。
- ・ 平時より、予定している避難経路が安全であるかどうかを確認しておく必要がある。例えば、大規模な河川の氾濫が発生していなくても水路や下水道の氾濫により足元が濁水で見えにくくなり道路の側溝や蓋が外れたマンホール等に落下したり、小規模な土砂災害が発生したりする場合があることも踏まえ、安全な避難経路を検討する必要がある。また、必要に応じ、避難先や避難のタイミングそのものを見直す必要がある。
- ・ これらの平時に確認・検討するべき内容について、避難行動をとるとともに想定される家族や地域等と共有し、災害時には可能な範囲で声を掛け合って避難すべきである。
- ・ 夜間や暴風時の立退き避難は危険を伴う。夜間に災害の状況が悪化する見込みがある場合はまだ日が明るいうちから避難するべきであり、暴風が予想される場合は、昼夜を問わず暴風が吹き始める前に避難を完了させるべきである。
- ・ 避難情報の発令対象区域は一定の想定に基づいて設定されたものであり、その区域外であれば一切避難しなくても良いというものではなく、想定を上回る事象が発生することも考慮して、危険だと感じれば、自主的かつ速やかに避難行動をとるべきである。
- ・ 自動車による避難は、移動中に洪水等に見舞われることや渋滞を発生させるおそれがあることに留意すべきである。また、一時的な避難先としてやむを得ず車中泊をする場合においては浸水等の災害リスクのある区域等に留まらないようにするとともに、エコノミークラス症候群等の予防を行うべきである。
- ・ 避難行動への負担感、過去の被災経験等を基準とした災害に対する危険性の認識、自分は災害に遭わないという思い込み（正常性バイアス）等によって避難行動をとるタイミングを逸することのないよう、行政から提供される避難情報や防災気象情報のほか水位情報や画像情報等のリアルタイム情報等を自ら確認し、適時的確に避難行動をとるべきである。
- ・ 災害が発生する前の、災害のおそれがある又は高い状況で市町村長から避難情報が発令されることから、実際には災害が発生しない「空振り」となる場合がある。避難した結果、何も起きなければ「幸運だった」という心構えをすることが重要である。
- ・ 他者からの避難の呼びかけが大きな動機付けになる場合があることから、自らの親戚・知人等が災害リスクのある区域等の居住者等である場合には、電話等をして避難を強く促すべきである。

〔内閣府「避難情報に関するガイドライン」の「1.2 居住者等が持つべき避難に対する基本姿勢」より〕

## C [まとめ] 本日のねらい

本日のねらい

**警戒レベルと避難行動との関係を学ぶ!**

市区町村が発令する「避難情報」で  
確実に避難することが重要  
しかし、外の状況は刻々と変わる

「避難情報」が発令されていなくても、気象台等が発  
表する防災気象情報を参考に、自らの判断で、早めに  
命を守る行動をとることも重要。

### ✓ 留意点

### — 専門家

本日のワークショップのねらいは  
「警戒レベルと避難行動との関係を学ぶ」  
点にありました。

非常に重要なので、各自で復習してください。

市区町村が発令する「避難情報」で確実に避難することが重要です。  
しかし、外の状況は刻々と変わってゆきますので、  
市町村から「避難情報」が発令されていなくても、  
気象台等が発表する防災気象情報を参考に、  
自ら判断で、早めに命を守る行動をとることも重要になってきます。

本ワークショップでは、それについても学ぶことができました。



### 気象コラム

気象庁では、台風・豪雨から「自らの命は自らが守る」基本的な知識ととるべき行動を学ぶeラーニング教材を公開しています。動画とワークシートで学ぶ教材で、好きな時間、自分のペースで学習を進められます。個人学習だけでなく、自治会や学校などでも活用できる教材です。

マイタイムラインや地区防災計画の事前学習資料にも最適です。  
ぜひ、活用してください。

自らの命は自らが守る 基本的な知識と行動を学ぶ

# 「大雨の時にどう逃げる」

監修：防災教育学会会長 諏訪 清二先生

まさか  
自分や家族が  
被災するなんて…

## あなたとあなたの大切な人は 自分の命を自分で守れますか？

台風や豪雨による災害から、あなたとあなたの大切な人の命を守るためには、身近な災害リスクを認識し、基本的な避難行動を理解しておく必要があります。  
ぜひ、この教材で学んでいただき、周囲の人にも伝えてください。

気象庁

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jma-el/dounigeru.html>

## C 【まとめ】おわりに

### 災害への心構え

災害は「まさか」ではなく  
「いつか」起きるものと認識せよ！

「自分は大丈夫」とは思わない！

「自らの身は自ら守る」「大切な  
人の命を守る」という意識を持つ。

### ✓ 留意点

このワークショップでの学習を、さらに深いものにし定着させていくためには、

- ①お土産としてスライドを本の形にしたものを配布する
- ②意見や感想を書いてもらう
- ③後日参加者同士が集まり話し合える機会を用意する
- ④インターネットでこのワークショップについて復習するといった方法が考えられます。

### ファシリテーター

今日みなさんは大雨災害について  
普段からの準備、安全や防災の知識・意識について学び、  
そして実際にあるかも知れない状況の中でどうするのかを真剣に考えました。

ワークショップに参加する前より格段に  
大雨災害の時の対応する力がついたことと思います。

今日知ったこと、感じたことを  
お家の方や友達など身近な人にぜひ積極的に教えてあげてください。

そしてこの学習を自分の住んでいるところで活かして、  
より対応する力をつけるためにも、  
ご家庭や学校、地域等でまた取り組んでほしいと思います。



### 気象コラム

気象庁では、防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」を作成しています。その中の一場面です。発達した積乱雲が引き起こす「急な大雨」「雷」「竜巻」等の激しい現象に対して、自分の置かれた状況を的確に判断し率先して自他の身の安全を図っていただくことを目的に制作しました。

都市部などでは、短時間の強い雨で浸水災害が発生します。浸水した状態で歩くことが大変難しいことを示したビデオです。こうなる前に早めの避難（あるいは安全なところにいるのであれば外出しないなど）が重要です。



気象庁ホームページでこれらのビデオや資料を見ることが出来ます。  
 ・字幕なし  
 ・日本語字幕あり  
 ・English Subtitles (英語字幕あり)

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/index.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/cb_saigai_dvd/index.html)

【ホーム> 気象庁について> 刊行物・レポート> 防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」】



## 事務連絡



### 留意点

#### ファシリテーター

この後、スタッフからアンケートを配りますので、もう一度、アンケートに協力をお願いします。

アンケートを書き終えた方は、机の上に置いてください。  
質問がある方はアンケート記入後に聞きに来てください。

それでは皆さん、大変お疲れ様でした。ご参加、ありがとうございました。

## 気象コラム

今回の気象庁ワークショップは、川沿いの住居と山の下にある住居を想定して、経験したことのない大雨時の対応を考えていただきました。

気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>) には、大雨の状況や雨雲の様子、警報・注意報の発表状況など、気象状況の把握が出来るとともに、いろいろな気象情報を活用して判断や避難などの対応について学べるページもあります。

スマートフォン等の普及もあり普段から情報を入力できる環境も整ってきていますので、自ら気象情報を入力して何に気をつけなければならないのか、いざとなったときにどのような行動を取らないといけないのか、普段から考えておくことが重要です。

災害は思いがけないときにやってきます。  
また、いつかは必ず起こるものです。

このワークショップを機会に、いざというときに備えて気象情報を活用してください。



【参考】防災教育に使える副教材・副読本ポータル  
防災教育に使える副教材・副読本を、対象年齢別、現象別等に整理して気象庁ホームページに公開しています。  
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/fukukyouzai/index1.html>







経験したことのない

その時どうする？

# 5

## 資料

Q & A  
告知用チラシ  
準備するものリスト  
アンケートの使い方  
アンケート（見本）

## Q & A

### 企画

- Q 参加希望者が多い場合、どのようにしたら良いですか？
- A 人数が多すぎる場合、グループワークがスムーズにいかず効果が十分に見込めない可能性があります。複数回に開催を分けることも検討してください。
- Q このワークショップの対象年齢を教えてください。
- A 小学校高学年から利用できる内容になっています。
- Q ワークショップを運営する上で、必要な費用はどのくらいですか？
- A 主に資料の印刷費と備品の費用です。

### 事前準備

- Q 荷物置きスペースを会場内で確保できない場合はどうすればいいですか？
- A 大きな荷物は活動の妨げになります。可能であれば別室で確保するようにしましょう。難しい場合は各自で管理してもらうようにしましょう。
- Q スタッフの服装は？
- A 動きやすく、かっちりしすぎていない格好が望ましいです。
- Q 時計は部屋のどのあたりに配置しますか？
- A 参加者から見やすいところに置くようにしましょう。

### レクチャー

- Q 台本どおりの台詞でないと問題がありますか？
- A 暗記する必要はありませんし、アレンジしていただいても構いません。ただ、台本に沿っていただくと実施時間が読みやすくなります。
- Q レクチャー後の質問にはどのように対応すれば良いですか？
- A 「気象コラム」を参考にしながら教えてください。避難のタイミングや方法に関する質問は、レクチャー後のグループワークで考える内容になりますので、その場では回答せず、この後みんな考えていく旨、ファシリテーターから伝えてください。難しい質問があった場合、気象庁にお問い合わせいただければ後日対応いたします。

## Q & A

### グループワーク

- Q** くじを引かせる時はどのように引かせれば良いですか？
- A** 決まりはありません。箱や袋を用意できると良いでしょう。
- Q** グループワークに出てくる条件について、「歩行困難」というのは車椅子ということですか？それとも杖を使っているということですか？
- A** 一人で移動することに何らかの支障があるという状態を指します。主催者や参加者に詳細を推測、検討してもらっても構いません。
- Q** 参加者の学習を促すような声かけについて、具体的にはどのような言い回しが有効なのでしょう？
- A** 状況を見ながら、何か困っている参加者はいないか見守りましょう。困っている様子がある場合には「～を知っていますか？」とスタッフから質問してみても良いでしょう。
- Q** グループワークの時の班分けにルールはありますか？
- A** 可能であれば、年齢や男女がまんべんなく混ざるようにしてください。
- Q** グループワーク中のポストイットはどのように使用するのですか？
- A** 皆の意見を書き出してみたり、メモ帳代わりにしたり用途は自由です。
- Q** 模造紙に貼るワークシートや地図の貼り方に形式はありますか？
- A** 形式は自由です。スタッフは発表時他の人が見やすいよう工夫しながら貼ることを参加者に促してください。
- Q** グループワーク中にスタッフはあまり動き回らないほうが良いでしょうか？
- A** 動き回る必要はありませんが、少し離れた場所から様子を見守ってください。

### 発表・まとめ

- Q** 発表の順番はどのように決めれば良いですか？
- A** ファシリテーターはグループワークの様子を見ながら、発表順を検討しておきましょう。1班から順に当てるのではなく、条件の近い順に展開させながら振っていくと学習効果が出やすくなります。なお、発表順の最初は緊張しやすいので、ファシリテーターは緊張をほぐすような声かけをしましょう。



## Q &amp; A

## シナリオ

- Q 避難しないという判断は正しいと言えるでしょうか？
- A 頑丈な建物の3階以上で食料や水を確保している場合など、安全が確保できるときは避難しないことも有効です。想定される災害と住居などの条件を考慮することが必要です。
- Q 避難経路は、どのように設定すればよいのですか？
- A 平常時に、避難する場所と経路の危険箇所などを確認して考えておくことが重要です。また、不測の事態を想定して複数の避難経路を考えておくことも有効です。
- Q 河川の側にあるこの避難所は安全なのでしょうか？
- A 避難場所は安全な想定です。避難する場合は安全に行くための経路を考えることが重要です。また、お住まいの避難所について疑問がある場合は市区町村にお問い合わせください。
- Q 避難場所はいつ開設されますか？
- A 基本的には、警戒レベル3高齢者等避難、警戒レベル4避難指示等避難情報が発令されたときに開設されます。台風の接近等、状況により早めに開設される場合もあります。詳しくはお住まいの市区町村にお問い合わせください。
- Q 大雨に関する注意報は、どれくらいの割合で警報になりますか？
- A 気象要因や予想などにより異なるため一概には言えませんが、警報級の現象が5日先までに予想される場合には、その可能性を「早期注意情報」として[高][中]の2段階で発表しています。警報に切り替わる可能性が高い場合は、注意報の中でもその旨言及しています。気象庁ホームページなどで確認できますのでご活用ください。
- Q 大雨の注意報や警報はどれくらいの雨で発表されますか？
- A 過去の災害事例を基に、各市区町村毎に基準を定めて発表しています。（個別の市区町村の基準は地元の気象台にお問い合わせいただくか、気象庁ホームページをご覧ください。）
- Q 気象情報などで「土砂災害に留意してください」と呼びかけているのは、判断を受け手に任せてしまっていて、どのように対応したら良いか分かりにくいのではないのでしょうか？
- A 近くに傾斜地があるなど、お住まいの状況によって危険性と対応が違います。お住まいの場所が大雨の際の危険リスクが高い場合、気象情報や周囲の状況に注意して、避難など早めの対応を心がける必要があります。土砂災害危険箇所図などで確認しておくことが重要です。

## Q & A

### アンケート

- Q アンケートは必ず実施する必要がありますか？
- A ワークショップでの学習効果を知る手がかりになります。時間に余裕があれば実施をお勧めします。

### その他

- Q マニュアルに記載されているBGMはどのような曲が適していますか？
- A 詞が入っていないもの、曲調が激しくないものであれば、問いません。
- Q 洪水ハザードマップや土砂災害危険箇所図を入手するにはどのようにすれば良いのですか？
- A 市区町村のホームページに掲載されていることが多いです。国土交通省ハザードマップポータルサイト (<https://disaportal.gsi.go.jp/>) では、ハザードマップの作成や公表の状況が確認できます。インターネット環境がない場合は、お住まいの市区町村にお問い合わせください。
- Q 洪水ハザードマップと土砂災害危険箇所図を入手したのですが、避難場所が浸水箇所や危険箇所になっているのですが、どのようにすればよいのですか？
- A お住まいの場所が大雨の際の危険リスクが高い場合、気象情報や周囲の状況に注意して、避難など早めの対応を心がける必要があります。このワークショップをきっかけにそれぞれの状況に応じた対応を考えてください。
- Q 令和（平成・昭和）〇年の大雨の要因は何ですか？
- A 地域で過去に災害をもたらした大雨の状況や要因等については、地元気象台にお問い合わせください。
- Q 参加者に外国人が含まれる場合、日本の警報等で判断することは難しくないでしょうか？
- A 日本に在住している外国人は日本の警報等で判断することとなるため、情報の入手方法や周囲の助けを得ることなど、グループで対応を考えることが、自助・共助に有効です。
- Q 気象庁ワークショップは出前講座でやってもらえるのですか？
- A 地元の気象台にお問い合わせください。なお、気象庁ワークショップは学校や地域の皆さんで開催できるよう、気象庁ホームページに各種資料を公開していますので、独自に開催されることもご検討ください。
- Q マニュアルに関しての問い合わせはどこにすれば良いのですか？
- A 気象庁にお問い合わせください。
- Q 他に開催されたワークショップ参加者の感想を知りたいのですが、どうすれば良いのですか？
- A 気象庁にお問い合わせください。

気象庁ワークショップ

経験したことのない

# 大雨

その時どうする？



毎年、大雨による災害で尊い命が失われています。  
経験したことのない大雨・・・危険はあなたのすぐそばまで迫っているかも知れません。  
あなたの、そして家族の命を守るためにどうしたら良いのでしょうか？  
ワークショップに参加して仲間と一緒に考えましょう！

日時

人数

場所

お問い合わせ先

TEL :

# 準備するものリスト

種 類	品 名	個数	担当者	✓
運営用スタッフ資料	運営マニュアル			
	スタッフスケジュール表			
	レクチャースライド台本			
	参加者名簿			
ワーク用資料	ワークシート			
	配布地図			
	模造紙			
	くじ各種セット			
配布資料	メモ用紙			
	事前アンケート			
	事後アンケート			
おみやげ資料	災害時の各自治体や公共サービスの案内表			
	使用スライドのコピー			
筆記具・文具	消しゴム付き鉛筆			
	鉛筆削り			
	マーカー			
	両面テープ			
	ワーク時使用付箋			
機材等	ビデオカメラ			
	三脚			
	タイマー			
	デジタルカメラ			
	ノートパソコン（事前にプレゼンテーションの動作を確認）			
	BGM用CD			
	机			
	椅子			
	パソコン用スピーカーセット			
	スクリーン			
	プロジェクター			
	壁掛け時計			
	ホワイトボード（タイムキープ用）			
	ホワイトボードマーカー（タイムキープ用）			
	名札			
テープ・のり				



## アンケートの使い方

気象庁ワークショップを通じて、参加者はどのようなことを感じ、どのようなことを学んだでしょうか。また、運営した皆さんはどのような考えをもったでしょうか。ワークショップでは、参加者だけではなく運営者も、活動を十分ふりかえることが大切です。

実施に対して、関与した人の中でさらに考えていく材料の一つとなるのが、アンケートです。アンケートをとることで、活動の意義や今後への課題が見えてくることがあります。このマニュアルでは、4パターンのアンケートが資料として所収されています。適宜組み合わせ、カスタマイズして活用してください。

### ① 参加者の学習効果を検討するアンケート

記名式（所要時間：各5分程度）

実施前に行う「事前アンケート ①-a」と、実施後に行う「事後アンケート ①-b」があります。セットで使えば、ワークショップ前と後での変化を知ることができます。時間が無い場合は「事後アンケート ①-b」のみ使うことも可能です。

### ② 参加者の感想を聞くアンケート

無記名式（所要時間：5～10分程度）

簡易版のアンケートです。

学習効果を詳細に見ることはできませんが、自由記述などから幅広い意見を聞くことができます。

### ③ 運営者の意見や感想を聞くアンケート

記名式（所要時間：各5分程度）

主催者の方に記入していただくアンケートです。

## 事前アンケート協力をお願い (参加者用)

名前: _____

本日はご参加ありがとうございます。  
 事前アンケートにご協力ください。時間は約5分を目安にしています。  
 回答中は他人と相談せず、ご自分が思う通りにお答え下さい。  
 以下の文について、あなたご自身にあてはまる選択肢の番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

1 非常によくあてはまる	2 よくあてはまる	3 すこしあてはまる	4 どちらでもない
5 あまりあてはまらない	6 ほとんどあてはまらない	7 全くあてはまらない	

① 大雨とはどんな自然現象かを知っている	1	2	3	4	5	6	7
② 大雨が降るとどんな災害が起きるか知っている	1	2	3	4	5	6	7
③ 大雨が降る前に、どんな準備をすればよいか知っている	1	2	3	4	5	6	7
④ 気象情報をどのように使えば良いか知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 気象情報を入手する手段を知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑥ 気象庁が発表する「特別警報」について知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 気象庁が発表する、土砂災害、浸水害、洪水の「危険度分布」について知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 気象庁が発表する注意報や警報は、市町村単位で発表することを知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 大雨の際は、会社や外出先などから家に帰れない人がでる	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 大雨が降っても、自分は災害にあわない	1	2	3	4	5	6	7
⑪ 大雨が降っても避難しようと思えばいつでもできる	1	2	3	4	5	6	7
⑫ 対策が十分整った河川であれば、氾濫する可能性はほとんど無い	1	2	3	4	5	6	7
⑬ 大雨の際は、地下街へ避難すればよい	1	2	3	4	5	6	7
⑭ 大雨は自分たちにとって身近な出来事だ	1	2	3	4	5	6	7
⑮ 自分の住む地域でも、いつかは大雨によって災害が起きるかもしれない	1	2	3	4	5	6	7
⑯ 大雨に備えて普段から準備することが大切だ	1	2	3	4	5	6	7
⑰ 大雨が予想される時は、早めに避難するべきだ	1	2	3	4	5	6	7
⑱ 大雨災害から身を守るための知識を持っている	1	2	3	4	5	6	7
⑲ 気象庁が発表する注意報と警報の区別がつく	1	2	3	4	5	6	7
⑳ 大雨のために事前に準備しておくのは面倒くさい	1	2	3	4	5	6	7
㉑ 大雨によって、自分の住んでいる地域のどこがどのように危険になるのか調べている	1	2	3	4	5	6	7
㉒ 普段から気象情報を活用している	1	2	3	4	5	6	7
㉓ 大雨災害について友達や家族と頻りに話し合っている	1	2	3	4	5	6	7
㉔ 大雨の時に住民がとるべき行動を5段階に分けた「警戒レベル」について知っている	1	2	3	4	5	6	7

## 事後アンケート協力をお願い (参加者用)

名前: _____

本日はご参加ありがとうございました。  
 事後アンケートにご協力ください。時間は約5分を目安にしています。  
 回答中は他人と相談せず、ご自分が思う通りにお答え下さい。  
 以下の文について、あなたご自身にあてはまる選択肢の番号にそれぞれ1つずつ○をつけてください。

1 非常によくあてはまる	2 よくあてはまる	3 すこしあてはまる	4 どちらでもない
5 あまりあてはまらない	6 ほとんどあてはまらない	7 全くあてはまらない	

① 大雨とはどんな自然現象かを知っている	1	2	3	4	5	6	7
② 大雨が降るとどんな災害が起きるか知っている	1	2	3	4	5	6	7
③ 大雨が降る前に、どんな準備をすればよいか知っている	1	2	3	4	5	6	7
④ 気象情報をどのように使えば良いか知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 気象情報を入手する手段を知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑥ 気象庁が発表する「特別警報」について知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑦ 気象庁が発表する、土砂災害、浸水害、洪水の「危険度分布」について知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑧ 気象庁が発表する注意報や警報は、市町村単位で発表することを知っている	1	2	3	4	5	6	7
⑨ 大雨の際は、会社や外出先などから家に帰れない人がでる	1	2	3	4	5	6	7
⑩ 大雨が降っても、自分は災害にあわない	1	2	3	4	5	6	7
⑪ 大雨が降っても避難しようと思えばいつでもできる	1	2	3	4	5	6	7
⑫ 対策が十分整った河川であれば、氾濫する可能性はほとんど無い	1	2	3	4	5	6	7
⑬ 大雨の際は、地下街へ避難すればよい	1	2	3	4	5	6	7
⑭ 大雨は自分たちにとって身近な出来事だ	1	2	3	4	5	6	7
⑮ 自分の住む地域でも、いつかは大雨によって災害が起きるかもしれない	1	2	3	4	5	6	7
⑯ 大雨に備えて普段から準備することが大切だ	1	2	3	4	5	6	7
⑰ 大雨が予想される時は、早めに避難するべきだ	1	2	3	4	5	6	7
⑱ 大雨災害から身を守るための知識を持っている	1	2	3	4	5	6	7
⑲ 気象庁が発表する注意報と警報の区別がつく	1	2	3	4	5	6	7
⑳ 大雨のために事前に準備しておくのは面倒くさい	1	2	3	4	5	6	7
㉑ 大雨によって、自分の住んでいる地域のどこがどのように危険になるのか調べたい	1	2	3	4	5	6	7
㉒ 普段から気象情報を活用したい	1	2	3	4	5	6	7
㉓ 大雨災害について友達や家族と頻りに話し合いたい	1	2	3	4	5	6	7
㉔ 大雨の時に住民がとるべき行動を5段階に分けた「警戒レベル」について知っている	1	2	3	4	5	6	7

## ワークショップ 「経験したことのない大雨 その時どうする？」 参加者用アンケート

本日はご参加ありがとうございました。  
今後の改善のため、アンケートにご協力ください。  
あてはまる番号を1つだけ選び、その番号を○で囲んでください。

①今回のワークショップの内容について、どの程度満足しましたか？

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 非常に満足した    | 2. 満足した      |
| 3. あまり満足しなかった | 4. 全く満足しなかった |

②今回のワークショップを経て、防災に対する意識はどの程度高まりましたか？

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1. 非常に高まった    | 2. わりと高まった   |
| 3. あまり高まらなかった | 4. 全く高まらなかった |

③これから先、あなたが大雨にあった場合、今回学んだことは役に立つと思いますか？

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1. 役に立ちそう       | 2. わりと役立ちそう |
| 3. あまり役に立ちそうにない | 4. 役立ちそうにない |

④このようなワークショップに、また参加してみたいと思いますか？

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. とても思う   | 2. 思う     |
| 3. あまり思わない | 4. 全く思わない |

⑤大雨災害について友達や家族と話し合ってみたいと思いますか？

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. とても思う   | 2. 思う     |
| 3. あまり思わない | 4. 全く思わない |

⑥今回のワークショップを通して気づいたことや感じたことを教えてください。

ご協力ありがとうございました。



ワークショップ  
「経験したことのない大雨 その時どうする？」  
主催者用アンケート

①実施日時 年 月 日 ( )
②主催者名 担当部署 氏 名 T E L E-mail
③主催した理由
④参加者人数
⑤参加者の属性
⑥スタッフ人数
⑦主催者としてのご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。

## 謝辞

気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時どうする？」の平成25年度の実施及び本マニュアルの作成において、下記の皆様に格別ご協力をいただきました。ここに感謝の意を込めて御礼申し上げます。

池尻良平（東京大学大学院情報学環）  
大阪府教育委員会  
大阪府立西野田工科高等学校及び同校参加生徒  
沖縄県教育委員会  
沖縄県立球陽高等学校及び同校参加生徒  
沖縄県立南風原高等学校及び同校参加生徒  
沖縄市立美里中学校及び同校参加生徒  
学校法人尚学学園沖縄尚学高等学校附属中学校及び同校参加生徒  
札幌市教育委員会  
東京学芸大学附属高等学校及び同校参加生徒  
東京学芸大学附属竹早中学校及び同校参加生徒  
那覇市立金城中学校及び同校参加生徒  
日本赤十字社総務局組織推進部青少年・ボランティア課  
日野市立平山小学校  
福岡県教育委員会

福岡県立糸島農業高等学校及び同校参加生徒  
福岡県立修猷館高等学校及び同校参加生徒  
福岡大学附属大濠中学校・高等学校及び同校参加生徒  
学校法人北星学園女子中学高等学校及び同校参加生徒  
北海道教育委員会  
宮城県教育庁  
宮城県仙台三桜高等学校及び同校参加生徒  
宮城県仙台第一高等学校及び同校参加生徒  
宮城県仙台第二高等学校及び同校参加生徒  
宮城県仙台二華中学校・高等学校及び同校参加生徒  
宮城県多賀城高等学校及び同校参加生徒  
宮城県宮城第一高等学校及び同校参加生徒  
文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課  
山田小百合（NPO法人Collable）

（五十音順・敬称略）



平成26年3月28日 第一版  
平成27年3月31日 第二版  
令和 元年7月 1日 第三版（警戒レベル等対応）  
令和 3年5月12日 第四版（避難情報見直し等）

### 監修

森玲奈（帝京大学 准教授）

### デザイン

猫田耳子（第一版、第二版）

### チラシ・スライド内イラスト

山浦えり

### 制作・問い合わせ先

気象庁総務部企画課地域防災企画室  
メールアドレス：jma_wxad@met.kishou.go.jp  
電話：03-6758-3900（内線2214）

# 気象庁ワークショップ



経験したことのない

その時どうする？

